

関係資料 1

令和元年度 高等学校全教育課程

教科	科目	標準 単位	高 1					高 2					高 3												
			一貫		ス・ハ - 特准V	特准V	進学	一貫		ス・ハ - 特准V	特准V	進学	一貫		ス・ハ - 特准V	特准V	進学								
			特准V	進学				特准V文	特准V理	進学	文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	特准S	文理総合	理系				
国語	国語総合	4	5	5	5	5																			
	国語表現	3																							
	現代文A	2																							
	現代文B	4					3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	3	3
	古典A	2																							
古典B	4					4	3	4	4	3	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	6	4	3	
地理歴史	世界史 A	2	2	2	2	2																			
	世界史 B	4																							
	日本史 A	2	2	2	2	2	4		4	4	4		3	4		4			4				7	5	
	日本史 B	4																							
	地理 A	2																							
地理 B	4																								
公民	現代社会	2	2	2	2	2	3																		
	倫理	2																							
	政治・経済	2																							
数学	数学 I	3	3	3	3	3																			
	数学 II	4	1	1	1	1	3	3	4	3	3	3	3	3	3	4	3								
	数学 III	5																							
	数学 A	2	2	2	2	2																			
	数学 B	2					3	3		3	3	3	3	3											
	数学演習	2																							
	数学演習	2																							
理科	科学と人間生活	2																							
	物理基礎	2	2	2	2	2																			
	物理	4																							
	化学基礎	2					2	2	3	2	2	2	2	2	3										
	化学	4																							
	生物基礎	2	2	2	2	2																			
	生物	4																							
	地学基礎	2																							
	地学	4																							
	化学基礎演習	2																							
生物基礎演習	2																								
生物化学基礎演習	2																								
保健体育	体育	7~8	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	保健	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
芸術	音楽 I	2																							
	美術 I	2	2	2	2	2																			
	書道 I	2																							
	音楽 II	2																							
	美術 II	2																							
	書道 II	2																							
	音楽 III	2																							
	美術 III	2																							
書道 III	2																								
英語	コミュニケーション英語基礎	2																							
	コミュニケーション英語 I	3	4	4	4	4																			
	コミュニケーション英語 II	4					4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	コミュニケーション英語 III	4																							
	英語表現 I	2	2	2	2	2																			
	英語表現 II	4					3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	3	3
	英語会話	2																							
英語探究	2																								
家庭	家庭基礎	2	2	2	2	2																			
	家庭総合	4																							
	生活デザイン	4																							
	ファッション造型基礎	2																							
	フードデザイン	2																							
情報	社会と情報	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	情報の科学	2																							
総合的な学習		3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
教科合計単位		36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
道徳							(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
特別活動ホームルーム		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
週当たりの授業時数		37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37

※数学演習・化学基礎演習・生物基礎演習・生物化学基礎演習・英語探究は学校設定科目である。

※SGコースについては総合学習の時間を探究科にあてる。

関係資料 2

令和元年度 SGH事業効果検証 生徒意識調査

各設問に対し、あてはまる番号を以下の①～④から選び、回答欄に記入して下さい。

①非常にそう思う ②そう思う ③あまりそう思わない ④全くそう思わない

* 表記の合計人数はアンケートの有効回答数

	日本人としての自覚	SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)		
		肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	
アイデンティティ	1 日本人であることを誇りに思う	340名 94.2%	21名 5.8%	622名 94.5%	36名 5.5%	17名 77.3%	5名 22.7%	22名 91.7%	2名 8.3%	24名 100.0%	0名 0.0%	
	2 日本の文化や伝統、歴史について海外の人に説明できる話題がある	240名 66.5%	121名 33.5%	438名 66.6%	220名 33.4%	20名 90.9%	2名 9.1%	22名 91.7%	2名 8.3%	15名 62.5%	9名 37.5%	
	3 日本について知識や理解を深めることは、外国についてと同様に重要だ	353名 97.8%	8名 2.2%	627名 95.3%	31名 4.7%	21名 95.4%	1名 4.6%	23名 95.8%	1名 4.2%	24名 100.0%	0名 0.0%	
	4 日本や日本文化は外国から正しく理解、評価されている	309名 85.6%	52名 14.4%	515名 78.2%	143名 21.8%	14名 63.6%	8名 36.4%	23名 95.9%	1名 4.2%	21名 87.5%	3名 12.5%	
グローバル関心度	地球規模の課題に対する幅広い関心		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	5 国際的な問題に関する話題やニュースに関心がある	306名 85.0%	54名 15.0%	540名 82.1%	118名 17.9%	22名 100.0%	0名 0.0%	22名 91.7%	2名 8.3%	24名 100.0%	0名 0.0%	
	6 世界各国で起こっている出来事を身近に感じることがある	276名 76.9%	83名 23.1%	505名 76.9%	152名 23.1%	21名 95.5%	1名 4.5%	21名 87.5%	3名 12.5%	20名 83.3%	4名 16.7%	
	7 世界各地の文化や伝統、歴史について知ることは楽しい	322名 89.7%	37名 10.3%	540名 82.1%	118名 17.9%	21名 95.5%	1名 4.5%	21名 87.5%	3名 12.5%	23名 95.9%	1名 4.2%	
8 地球上で起こっている食糧問題について他者に説明することができる	160名 44.6%	199名 55.4%	306名 46.5%	352名 53.5%	17名 77.3%	5名 22.7%	19名 79.2%	5名 20.8%	14名 58.3%	10名 41.7%		
コミュニケーション力	多様性を認めながら、主体性を発揮できるためのコミュニケーション能力		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	9 日常生活において他者の気持ちを推し量りながらコミュニケーションを取れている	314名 87.4%	45名 12.6%	564名 85.7%	94名 14.3%	21名 95.5%	1名 4.5%	23名 95.8%	1名 4.2%	23名 95.8%	1名 4.2%	
	10 自らの意見を持ち、相手にわかるように主張を伝えることができる	282名 78.6%	77名 21.4%	483名 73.4%	175名 26.6%	20名 90.9%	2名 9.1%	22名 91.6%	2名 8.4%	19名 79.2%	5名 20.8%	
	11 英語が好きだ	210名 58.5%	149名 41.5%	349名 53.0%	309名 47.0%	15名 68.2%	7名 31.8%	19名 79.2%	5名 20.8%	23名 95.8%	1名 4.2%	
	12 コミュニケーションツールとしての英語習得に取り組んでいる	213名 59.4%	146名 40.6%	344名 52.3%	314名 47.7%	19名 86.4%	3名 13.6%	20名 83.3%	4名 16.7%	22名 91.6%	2名 8.4%	
13 自分の将来に英語力は必要だと思う	321名 89.4%	38名 10.6%	548名 83.2%	110名 16.8%	21名 95.4%	1名 4.6%	24名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%		
課題解決力	自ら課題を設定し、他者と協働して解決する力		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	14 困難に直面したときにその原因をつきとめ、解決策を立てることができる	260名 72.5%	99名 27.5%	455名 69.2%	203名 30.8%	20名 90.9%	2名 9.1%	20名 83.3%	4名 16.7%	20名 83.4%	4名 16.7%	
	15 課題に対して他者と協働して解決することができる	312名 86.9%	47名 13.1%	538名 81.8%	120名 18.2%	21名 95.4%	1名 4.6%	23名 95.9%	1名 4.2%	24名 100.0%	0名 0.0%	
	16 狙いや目的を意識した上で学習に主体的に取り組むことができる	292名 81.3%	67名 18.7%	498名 75.7%	160名 24.3%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	22名 91.7%	2名 8.3%	
17 自分の興味関心があることについて調べ、深めることができる	346名 96.4%	13名 3.6%	592名 90.0%	66名 10.0%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%		
グローバルキャリア形成	グローバルな分野で挑戦する意欲		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	18 将来の夢、目標がある	288名 80.3%	71名 19.7%	519名 79.0%	138名 21.0%	22名 100.0%	0名 0.0%	20名 83.3%	4名 16.7%	20名 83.3%	4名 16.7%	
	19 大学で勉強または研究したいテーマがある	227名 63.2%	132名 36.8%	453名 68.9%	205名 31.1%	18名 81.8%	4名 18.2%	19名 79.1%	5名 20.9%	16名 66.6%	8名 33.4%	
	20 国際化に重点を置く大学へ進学したい	161名 44.9%	198名 55.1%	248名 37.7%	409名 62.3%	17名 77.3%	5名 22.7%	20名 83.4%	4名 16.6%	23名 95.8%	1名 4.2%	
	21 海外に留学してみたい	205名 57.1%	154名 42.9%	351名 53.4%	307名 46.6%	16名 72.7%	6名 27.3%	23名 95.8%	1名 4.2%	20名 83.3%	4名 16.7%	
22 国連などの国際的な機関で働いてみたい	104名 29.1%	254名 70.9%	175名 26.6%	482名 73.4%	14名 63.6%	8名 36.4%	14名 58.3%	10名 41.7%	15名 62.5%	9名 37.5%		

アイデンティティ	日本人としての自覚		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④	肯定 ①+②	否定 ③+④
	23	日本人であることを自覚する機会が増えた	315名 88.0%	43名 12.0%	508名 77.2%	150名 22.8%	19名 86.4%	3名 13.6%	24名 100.0%	0名 0.0%	22名 91.7%	2名 8.3%
24	日本の文化や伝統、歴史について興味関心を持つようになった	303名 84.6%	55名 15.4%	532名 80.8%	126名 19.2%	20名 90.9%	2名 9.1%	22名 91.7%	2名 8.3%	21名 87.5%	3名 12.5%	
25	日本や日本文化についてもっと知りたい	315名 88.2%	42名 11.8%	536名 81.6%	121名 18.4%	20名 90.9%	2名 9.1%	20名 83.4%	4名 16.7%	22名 91.7%	2名 8.3%	
26	日本や日本文化について、より多くの外国人に知ってほしい	336名 93.9%	22名 6.1%	574名 87.2%	84名 12.8%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	
グローバル関心度	地球規模の課題に対する幅広い関心		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
	27	海外の話題やニュースに関心を持つようになった	304名 84.9%	54名 15.1%	512名 77.8%	146名 22.2%	22名 100.0%	0名 0.0%	22名 91.6%	2名 8.4%	21名 87.5%	3名 12.5%
28	世界各国で起こっている出来事がどのように日本とつながっているか考えることがある	264名 73.7%	94名 26.3%	477名 72.5%	181名 27.5%	21名 95.4%	1名 4.6%	20名 83.3%	4名 16.7%	20名 83.3%	4名 16.7%	
29	世界各地の文化や伝統、歴史について(授業に関わらず)興味関心を持って学習している	263名 73.5%	95名 26.5%	407名 61.9%	250名 38.1%	18名 81.8%	4名 18.2%	21名 87.5%	3名 12.5%	22名 91.6%	2名 8.4%	
30	地球上で起こっている食糧問題について例を挙げて説明することができる	196名 54.8%	162名 45.2%	333名 50.6%	325名 49.4%	19名 86.3%	3名 13.7%	23名 95.8%	1名 4.2%	18名 75.0%	6名 25.0%	
コミュニケーション力	多様性を認めながら、主体性を発揮できるためのコミュニケーション能力		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
	31	「食」に関する諸問題を解決することは、自分たちの暮らしがよりよくなることにつながる	333名 93.0%	25名 7.0%	573名 87.1%	85名 12.9%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%
32	報道される話題やニュースについて、自分の生活との関連を考えることがある	297名 82.9%	61名 17.1%	512名 77.8%	146名 22.2%	22名 100.0%	0名 0.0%	20名 83.3%	4名 16.7%	22名 91.6%	2名 8.4%	
33	英語をはじめとする外国語を学んでみたいと思う(もしくは現在学校の授業以外で学んでいる)	269名 75.2%	89名 24.8%	480名 72.9%	178名 27.1%	20名 90.9%	2名 9.1%	24名 100.0%	0名 0.0%	23名 95.9%	1名 4.2%	
34	外国人と話すのは楽しい	291名 81.3%	67名 18.7%	463名 70.3%	195名 29.7%	21名 95.4%	1名 4.6%	24名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	
35	自分の将来に語学力があれば活躍できる世界が広がる	340名 95.2%	17名 4.8%	580名 88.1%	78名 11.9%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	23名 100.0%	0名 0.0%	
課題解決力	自ら課題を設定し、他者と協働して解決する力		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
	36	外国語を習得するためには、母国語(日本語)の力も大事だ	338名 94.6%	19名 5.4%	609名 92.5%	49名 7.5%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	23名 100.0%	0名 0.0%
37	相手に自分の主張が伝わらないとき、伝わるまでの工夫/努力を怠らない	305名 85.5%	52名 14.5%	516名 78.5%	141名 21.5%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	23名 100.0%	0名 0.0%	
38	ある科目で学んでいる単元/分野と他の科目とが関連していると感じることがある	302名 84.6%	55名 15.4%	548名 83.6%	107名 16.4%	21名 95.4%	1名 4.6%	20名 83.3%	4名 16.7%	22名 95.7%	1名 4.3%	
39	自分の興味関心があることについて調べ、深める努力をしている	317名 89.0%	39名 11.0%	575名 87.6%	81名 12.4%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	21名 91.3%	2名 8.7%	
グローバルキャリア形成	グローバルな分野で挑戦する意欲		SGH対象 (361名)		SGH非対象 (658名)		第3期SGクラス (22名)		第4期SGクラス (24名)		第5期SGクラス (24名)	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
	40	1年前に比べて、将来の夢や目標がはっきりしてきた	260名 72.8%	97名 27.2%	520名 79.1%	137名 20.9%	20名 90.9%	2名 9.1%	21名 87.5%	3名 12.5%	13名 56.5%	10名 43.5%
41	5年後の自分を想像することがある	212名 59.3%	145名 40.7%	434名 66.2%	221名 33.8%	15名 68.2%	7名 31.8%	18名 75.0%	6名 25.0%	16名 69.6%	7名 30.4%	
42	20年後の自分を想像することがある	144名 40.3%	213名 59.7%	316名 48.1%	341名 51.9%	13名 59.1%	9名 40.9%	14名 58.3%	10名 41.7%	11名 47.8%	12名 52.2%	
43	様々な国・地域出身の人と学ぶことは楽しい	327名 91.6%	30名 8.4%	523名 79.6%	134名 20.4%	22名 100.0%	0名 0.0%	24名 100.0%	0名 0.0%	23名 100.0%	0名 0.0%	
44	グローバルキャンパスのように外国人学生とまた一緒に活動したい	300名 84.3%	56名 15.7%	467名 71.2%	189名 28.8%	21名 95.5%	1名 4.5%	24名 100.0%	0名 0.0%	22名 95.7%	1名 4.3%	

第 1 回 運営指導委員会 議事録

令和元年 6 月 19 日(水) 13 : 30～17 : 00

於 : 本校 1 階 大会議室

次 第

- 一、校長あいさつ
- 一、理事長あいさつ
- 一、運営指導委員紹介
- 一、五年次事業計画
- 一、探究科授業見学
- 一、質疑応答

出席者

運営指導委員

- 岩本仁氏代理 竹下徹氏 (学校法人福岡成蹊学園副校長)
- 小野博氏 (グローバル人材育成教育学会会長)
- 新澤和幸氏 (福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局私学振興課参事補佐)
- 末松大和氏 (NPO 法人アジア太平洋こども会議・イン福岡専務理事)
- 副島雄児氏 (九州大学副理事)
- 米濱和英氏 (株式会社リンガーハット代表取締役会長兼 CEO)

学園・本校関係者

- 中村量一 (学校法人中村学園理事長)
- 中村紘右 (学校法人中村学園法人本部長)
- 北浩一郎 (株式会社 LbE Japan 代表取締役/本校国際化顧問)
- 安達一徳 (学校法人中村学園相談役)

本校教職員

- 奥井裕紀子 (学校長)
- 高良清文 (教頭)
- 木林裕盛 (教頭)
- 赤司博文 (事務長)
- 平田晃己 (教育開発部長)

議事録 : 土手

校長挨拶

学校長

- ▶ 今年度は SGH 事業がいよいよ最終年度。今年度の食のサミットは「食と飢餓」がテーマ。九州大学副島先生には昨年引き続き審査員長をご快諾いただき感謝している。また、福岡の

「食」を牽引する企業の一つとして、久原本家より社長の川邊哲司氏にも審査員としてご出席を賜る予定。加えて、昨年アジア高校生架け橋プロジェクトで来校した6名のうちモンゴル・バングラデシュ・マレーシアの3名が帰国し参加してくれている。学園の支援もあり、昨年よりチーム数を増やし、9チームでの本選開催を予定。生徒たちの成長にもつながるよい機会になる。委員の皆様には引き続きご指導を賜りたい。

理事長挨拶

理事長

- ▶ お忙しい中、ご足労いただきお礼申し上げます。SGH 事業最終年度、集大成の年として7月に開催する食のサミットも一段と盛り上がりを見せるのではと期待しているところ。SGH 事業の開始前後で女子校の雰囲気はより好転し、グローバル化等も進んでいる印象を受ける。委員の皆様には引き続きご指導賜りたくお願い申し上げます次第です。

運営指導委員紹介

米濱氏

- ▶ 入室して食のサミットの資料を拝見したが、「食と飢餓」をテーマに様々な調査を行い、SDGs 等も、国会議員・企業問わず一丸となって取り組もうという風土ができつつある。企業の取り組みでも同じだが、テーマ(目標)を掲げるのはいいが、その内容一つひとつの達成に向けた遂行を徹底することが大切で、そういったことが顧客満足度にも現れる。日頃そういったことを(社内でも)言い続けているが、なかなか難しい。

副島氏

- ▶ 大学では高大連携担当の理事も担当している。様々な学校の様子を目にする機会があるが、SGH 活動等仕掛けは国の方針や文科省等それぞれ違う事業でも、様々な学校現場で取り組みの変化を感じられるようになってきた。それを受けて、大学側も変わっていくのを肌で感じられるようになってきた。各箇所での変化を肌で感じられるようになった。食のサミットは昨年引き続き審査員長を引き受けているが、今日の委員会でも食のサミットの報告があるので楽しみにしている。

竹下氏

- ▶ 昨年4月から成蹊学園の副校長を務めているが直前までは公立高校の校長を歴任。元々英語の教員ということもあり、こういった活動を目にする機会は嬉しく思っている。昨年に引き続き、岩本氏の代理として出席しているが、学校現場の経験者でもあり、生徒の活動の様子・授業参観も含めて楽しみにしている。

末松氏

- ▶ 主幹事業は小学生(11才)の国際交流だが、参加した小学生がその後中学・高校・大学・社会と進むにつれ、(進路の)目印がないような状況が続いていると感じているところ。(APCCの事業を通じて来日した)海外の子どもたちが、その経験を経て大きく成長し社会に羽ばたく報告を受け、日本との差が広がっているような懸念をしている。(SGH事業のような)こういった学校の取り組みは、子どもたちの成長の機会の一つとしても重要な役割を担っていると感じている。グローバル人材の成長の機会として、こちら共々学んでいきたい。

小野氏

- ▶ 私自身、十数年前に岐阜で文科省のこういったプログラムの担当をしていた。その際は、対象の生徒・先生のみが取り組んでいるプログラムという印象を受けていた。委員会での報告を受ける中で、学校全体が取り組んでおり、また社会もそういったものを必要としている印象を強く受ける。引き続きよろしく願いいたします。

新澤氏

- ▶ 今年度から私学振興課に異動・初めて担当者として SGH の取り組みを拝見する。こういった取り組みに参画していただき、県としてお礼申し上げたい。福岡県の学校教育の進行プランや教育施策実施計画等にもあるように、本県の子どもを育てる視野の一つとして「国際的な視野を身につけ、地域で活躍できる人材を(育てる)」ということがある。こういった機会から世界に羽ばたく生徒もいるだろうが、多くは地元(日本)にいて生活していくものと捉えている。これだけ多くの子どもたちが国際的な視野をもって社会人になることは大変意義深い。その学びの場に身を置く生徒のみなさんの様子を拝見するのをとても楽しみにしている。

部会報告

5 年次計画 (平田)

- ▶ (手元の資料を参照の上) まず、5 年目の取り組みとして、新設した教育開発部の説明をした上で、各部会の報告と 7 月に開催する食のサミットについて説明する。
- ▶ 本校の 5 年次計画のテーマは「地球規模の課題『食』を通じたグローバル・リーダーの育成」。高 1 では広範な知識の獲得をテーマに学年全体を対象にした学びの機会を設定。その後、高 2 への進級時にコース選択で SG クラスへ進級した生徒が 2 年次・3 年次と進む。2 年次は探究テーマ解決能力の育成を、3 年次には探究内容の発信と希望進路の実現をテーマに学習を展開している。
- ▶ 事業の最終年度の今年度は、成果の最大化とともに、教育活動の発展として SGH に続く教育活動(WWL への申請に向けた準備含む)が課題である。
- ▶ 昨年度末に作成した報告書にも掲載している 7 点が今年度の取り組み課題。ここに注力しながら、活動を展開していく。
- ▶ 次に、新設した「教育開発部」について説明する。SGH の取り組みは昨年度まで委員会組織だったが、これまでの 21 世紀型教育の検証と継続的な発展を目的として部を新設。職務内容としては、SGH 事業とポスト SGH 事業(本校のグローバル教育)、留学生の対応や高大連携等の他部署との境界領域について。昨年までの SGH 委員会以外のメンバーが多数を占める構成であり、組織も一新。特に「中村学会」は学園全体の教育活動の共有・開発を深める目的で実施しているものとして取り組んでいく。

グローバル・キャンパス部会 (平田)

- ▶ 昨年度までの課題として、主にルーブリックを用いた生徒・運営者双方の評価指標の確立が挙げられる。昨年度は生徒が自己評価するためのルーブリックを運用したところ、項目が複雑化しており、また運営者からの評価は別の指標だった。そのため、今年度は双方が同じ指標で評価するように改善を図る。

国際交流部会 (永松)

- ▶ 海外の学校・生徒との交流会の計画と実施・留学生の受け入れ・学内外で開催される国際関係の情報や行事の発信を通じて、在学時の留学や進学先として海外の教育機関への進学を目指す生徒の育成を目指すと共に、留学をせずとも国際的な視野を育成する環境を校内で提供することを目的とした展開を行う。今年度の取り組みは、これまで行ってきた国際化の活動を汎用できるものにし、よりよく生徒へ普及することに注力していく。今年度 12 月までの国際交流に関する生徒の取り組みは資料にある通りである。

SG クラス (横山)

- ▶ 今年度 SG クラスを初めて担当 (担任) するが、積極的な生徒が多く在籍している。先の国際交流部会の取り組みにあった私学協会主催のアジア派遣 (タイ) に参加する 2 名とトビタテ！留学 JAPAN で留学が決定した 1 名はいずれも SG クラス 2 年生。また、8 月末には中国からの編入生も 2 年に入るので、今後のクラス運営がとても楽しみである。
- ▶ 2 年次の探究科はこれまで同様に食に関する 4 つの領域を学ぶ予定。ちょうど今日は「食と社会文化」の一環でハラル料理の調理実習を行っている。また、文化祭では朝倉の農産物を用いた活動を通じて、地産地消や災害復興にむけた支援を行う予定である。3 年次もこれまで同様に食のサミットへの取り組みと論文作成を予定。各学年人数は少ないが、今後の活動展開にも期待がもてる積極的な生徒が多いので、引き続きしっかり指導にあたっていきたい。

SG 講演・講座 (當山)

- ▶ 高 1 対象の SG 講座は、昨年度までに引き続き中村学園大学短期大学部准教授の津田晶子氏に依頼し、ICT を活用した英語による講座を実施予定。全校生徒対象の SGH 講演会には、株式会社ことほぎ代表取締役の白駒妃登美氏の講演を予定。また、SG クラス 1 期生 (卒業生) 坂口茜南さんより、大学生活を踏まえて「グローバルな環境で学ぶ意義」を紹介するビデオメッセージをもらい、グローバル教育への興味・関心を喚起する予定である。

進路 (平田)

- ▶ 高大連携の取り組みとして 3 日に渡り大学の公開授業への参加を行った。参加者人数が芳しくなかったため、大学での学びへの興味・関心の醸成としても次年度は参加者増を努めたい。高 1 の生徒対象の進路説明会では、現 SG クラスの生徒たちの希望もあり、先輩による説明をする等より多くの希望者を募り選考できるように取り組んでいる。

SG クラブ (平田)

- ▶ 外部主催のイベントへの参加を促し、SG クラス進級希望者の醸成につなげる。

英語力向上 (山口)

- ▶ 昨年度の取り組みについては資料記載の通りだが、一昨年度に比べ英検 2 級・準 1 級の合格者が出ており、昨年度に引き続き今年度も外部講師による英検準 1 級対策講座も行い、SGH の取り組み強化を一層図っていききたい。また、高 3 の進路決定者向けにセブ島語学研修を実

施して 3 年目だが、昨年度はコースを 2 つ設けた。大学入学前教育の一環として今年度も実施予定である。

- ▶ その他、SG クラス進級者向けの特設授業の実施や GTEC・英検の受験者増に向けた取り組みを引き続き行っていくが、今年度は Benesse が行う大学入学共通テストの様式を利用した GTEC の受験についても依頼を検討している。また、通常の指導に加え、英語力向上の最も重要な取り組みとして、CEFR-B1 レベルの生徒を増やすべく、定期考査等も大学入学共通テストを踏まえ、問題内容や技能バランスの改訂を行っていく。

AL・指導指標 (伊藤)

- ▶ AL に関して授業での実践だけでなく、理論の学習も行っていく部会である。若手教員で組織する青研会と合同で勉強会を実施。また、7 月には教員研修の一環で元京都精華大学教授の筒井洋一氏による AL の実践に関する講演も予定し、教員全体のスキルアップを図る。
- ▶ 指導指標に関しては、AL の取り組みについて学期ごとに教員個人が評価し、6 年目の実施となる。学期ごとに集計したものは校内で共有し、より深い学びの実践を努めていく。

情報公開 (平田)

- ▶ これまで以上に、SGH 事業の取り組みについて「できるだけ早く・多く」正しい情報発信を行っていく。

今年度から始動した新たな取り組みについて (平田)

- ▶ ① 新 SG クラスの募集について
これまでは特進コースとして 2 年次から開設していたが、一貫した 3 年間の充実したグローバル教育の実践と魅力ある一般進学コースに向けて、高 1 から募集するように変更していく。
- ▶ ② 事業連携・提携校の開拓
国内外の学校と、グローバル教育事業での連携・提携を進めていく。現時点で、本校同様に SGH 校に H27 年度に指定を受けた 3 校と、また昨年度アジア高校生架け橋プロジェクトで受け入れた生徒が在籍するモンゴルのウランバートルにある 84th School との提携を予定。提携を通じて、学校間交流の拡大や共催イベントの実施、ICT を活用した授業や探究活動を実施していく。

食のサミット (手島)

- ▶ 3 度目の開催となる今年は 7 月 12 日・13 日。昨年度の反省点として、1 学期終了後で課外や登校に関する反省点があったため、前倒しでの実施。これまで同様に世界各国の中高生と「食に関する諸問題」の解決策を見いだすことを目的とし、今年は「食と飢餓」をテーマに開催。テーマを限定的にしている理由は、昨年度と同様に提言書策定を行う際、同じ視点で議論をより深めることができるためである。
- ▶ 予選に関しては、これまで同様に提言案とその PV を審査し、本戦出場チームを決定。冒頭にもあったように、アジア高校生架け橋プロジェクトで昨年受け入れた生徒の学校から 3 チームの出場枠を設け、合計 7 カ国・9 チームの出場を予定している。
- ▶ スケジュールに関しては資料に記載の通り。プレ会議の司会進行に関しては、生徒から「自

分たちで行いたい」との声が上がっており、極力生徒による運営ができるように指導していきたい。

- ▶ 第2部・第4部に関しては、テーマは変更の可能性はあるが、高2のSGクラス主体で進めていく。
- ▶ 運営指導委員の皆様には、引き続き審査員としてお力添えをお願いいたします。なお、評価指標については同封しているループブックを使用する予定である。

質疑応答

竹下氏

- ▶ AL・指導指標について、学期ごとに検証をしているとのことだが、教員のみで生徒へのアンケート調査は行っていないのか？
 - ▷ **回答(平田)** 教育開発部としては教員のみを対象として行っているが、別部門で授業評価は生徒にアンケートをとる形で実施している。

竹下氏

- ▶ ALに関して、先生方は「こういう意図を持って行っている」と思っているが、そこに対して生徒がどう捉えているかを測っていく必要もあるのではないのか？
 - ▷ **回答(平田)** 直接的な評価観点は設けていなかったもので、今後の取り組みの中で検証していきたい。

北氏

- ▶ 国際交流について：「国際化の取り組みの共通理解」のためにどのようなことを行うのか、活用の現状とSGHの独自性をどう進路につなげようとしているのか。英語力向上について：活用する英語試験はGTECに移管していくのか、また大学入試を想定したターゲットの設定がどのようになされているのか、英検の成果が目標に対する達成率としてどうなのか。以上のことが気になった。この中から重要だと捉えている項目があればご回答いただきたい。
- ▶ ① 進路実現の達成度の検証 検証項目と取り組みがどのように一致しているのか
- ▶ ② それぞれの取り組みとアウトプットの相関性をどうマネジメントしているのか
- ▶ ③ 入学希望者数とSGHとの相関性をどのように捉えているのか
- ▶ 助言：毎年思うところだが、食のサミットを広報戦略にどのように活用するかは課題が残っている。
- ▶ 一番気になるのは、それぞれの取り組みが最終的なアウトプットにどう相関しているのか、またそれを誰が検証・マネジメントしているのか。
- ▶ 最終的に進路だけでいいのか、SGクラス等の生徒たちが卒業時に獲得したスキルを検証し、校内で活用・またここで生じた事例を今後どう活かすかが重要だと考えている。

回答(山口)

- ▶ 英語力向上に関する回答：

全員がB1レベルに到達することを目標としており、それを踏まえると1期生より2期生が低下している現状がある。しかし、学校全体の数としてはB1レベル以上が増加している。要は、下位層をどのように伸ばしていくかが今後の課題であると捉えている。また、3期生に関しても2期生よりは数値は高く、今後期待できると共に指導については他部署と連携しながら

指導にあたりたい。

活用する検定が英検なのかGTECなのかという点については、B1達成度でいえば英検の方が有利ではないかと感じている。やはり、新入試を意識してGTECも変わってきているので、様子を見ている。学校から指定するのではなく、最終的にはどちらを選ぶかは生徒に選択させることになる。

副島氏

- ▶ 最終年度としてプログラムもより充実してきた印象を受けている。その中で、北氏の質疑と重複する点もあるが、インプットの説明しかなかったという印象を受けた。アウトプットをどのように捉えているのかがもう少し見たい。例えば、食のサミットがアウトプットとしてこういう意図を持っているというような仕掛け作りはわかったが、生徒の動きが見えづらい。生徒たちに期待されているアウトプット等も説明が少ないので、わかりにくいと感じた。具体的にこういう力をつけさせる仕掛け作りをし、どこでそのアウトプットが見えてくるのかを聞きたい。

高2SGクラスの授業参観(二宮・ハイダー)

- ▶ 世界の食文化の違いをテーマに取り組んだ。文化の違いがあることは知っているが、それを「なぜ？」から考察するスキルを身につけさせる目的だった。結果として概ねどの班も到達できていた。
- ▶ Keynoteの使用等は生徒たちが率先して取り入れたプレゼンテーション活動になった。英語での質疑応答についてはまだ課題が残るが、今後の指導で強化していきたい。

質疑応答

副島氏

- ▶ 間違ってもいいから発話するという雰囲気がクラス内にあり、よかった。ぜひ次回の学習活動(プレゼンテーション)に向けて、今後、校外での発表活動でも活かせるので、プレゼンテーションの基本的なスキルとマナー(聴衆を配慮した表現方法)についても指導をしてほしい。

北氏

- ▶ 質問ではなく提案として、プレゼンテーションに対する評価表はあったが、スキルや知識に関する項目も加えて、学びを相対的に評価し次につなげるように取り入れてほしい。
- ▶ 英語のスキルに関する“can/do”を明確に学習者がターゲットとして持つこと、それらがどのレベルでできるようになっているのかを評価する指標も組み立てて明示することが重要だ。また、英語以外のところで、批判的思考・論理的思考等学力の3要素の大きな項目において、どこまで育てようとしているのか、また知識に関してはどういった知識を獲得しているのか、獲得した知識を応用できているか等、指導者も学習者も共通理解として学習活動を進められるように評価指標に加えてほしい。

全体への質疑応答

米濱氏

- ▶ 現在社会で起こっている事例をご紹介させていただく。社会の様々な場面で多言語コミュニ

ケーションが日本国内でも求められるようになってきている。御殿場にある弊社の工場では8カ国語が飛び交い、都心部の店舗では外国人労働者が1000人超等。日本社会における外国人労働者が抱える問題は日本の習慣を身につけることだが、そこも社内で共有しながら人材育成を行ってきている。コンビニでも外国人が働いているのを目にすることが自然になってきているが、弊社でも店舗の管理職に外国人が就く日はそう遠くない現実がある。そういった、異なる背景を持つ人たちとの協働が社会の現場で起こっていることをお伝えしておきたい。

北氏(米濱氏に対して)

- ▶ 例えば、中村学園女子中高を卒業して、米濱氏が「うちでは多様性に富んだチームを率いる人材を探している」というような場合、どのような卒業生であれば採用してみたいと思われるか?

米濱氏(北氏の質問を受けて)

- ▶ 高卒で頑張ってくれている社員は多いが、商品開発部にいる女性社員が頭に浮かんだ。スキルも大事だが、人間味があり哲学がしっかりしている人がどこにいても可愛がられたり、コミュニケーションを円滑にとれたりするので社会では必要とされている力だと感じている。

米濱氏

- ▶ 4年間取り組んできたことの集大成として、磨きをかけた教育・指導をお願いしたい。

副島氏

- ▶ 最終年度のまとめの年だが、来年度からは1年次の募集からSGクラスの予算があり、委託費があったから取り組んでいるわけではなく、次年度以降の学校教育に活かしたいという言葉は非常に嬉しく期待がもてた。是非頑張ってもらいたい。

竹下氏

- ▶ 集大成ということで、最後の授業に関しては、まだまだ英語力等はこれから伸ばす必要があると感じた。互いのプレゼンを観てどのように改善するかも大事だが、教員側からもその都度指摘し新たな視点を届けることも大事。さらに生徒の力をつけるように取り組んでほしい。

末松氏

- ▶ 私は平成元年に高校生だったが、当時からこういう授業があれば自分もグローバル人材になれたのになあと感じた。(授業参観を受けて)プレゼン力・英語力を同時に養う大変さもあるが、生徒のみなさんが楽しそうに取り組んでいる印象はとてもよかった。また1年、2年と進む今後も成長を見せてほしい。

小野氏

- ▶ 学会で、海外にいった学生たちに何が身についたかを尋ねると、「英語力」が一番には上がらず、「異文化対応力」という声が多く、そのスキルを測るテストを開発しようと3年かけてきた。その中で、どういった研修だと効果があるか等がみえてくるようになった。今年の春に桐蔭中高の生徒200名でとったデータがあるので、もし興味があれば共有したい。

新澤氏

- ▶ 笑顔で取り組む生徒の姿から取り組みの成果が垣間見えた気がする。過去の報告書も、生徒たちが自分のことを成長していると感じた数値が高かったのが印象的だった。今後社会に出て多様性に身を置く際、やはり異文化理解が鍵になると思う。英語はあくまでツールであり、今回拝見した授業ではテーマも与えられたものだったが、今後はテーマの模索も個人で取り組むことになっていく。幅広い関心と深い教養を身につける大切さを痛感した。先の報告にもあったが、やはり教科横断型カリキュラムの開発は広い教養の習得に欠かせないものである。今後の取り組みに期待したい。

第2回 運営指導委員会議事録

令和元年10月16日(水) 13:30~16:20

於：本校1階 大会議室

次 第

- 一、校長あいさつ
- 一、「食のサミット」実施報告
- 一、水仙祭報告
- 一、マレーシア海外研修計画説明(2年生)
- 一、「アジア高校生架け橋プロジェクト」留学生について
- 一、質疑応答

出席者

運営指導委員

- 岩本仁氏(学校法人福岡成蹊学園理事長)
- 小野博氏(グローバル人材育成教育学会会長)
- 新澤和幸氏(福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局私学振興課参事補佐)
- 末松大和氏(NPO法人アジア太平洋こども会議・イン福岡専務理事)
- 副島雄児氏(九州大学副理事)
- 米濱和英氏代理 内田健吾氏(株式会社リンガーハット代表取締役会長秘書)

学園・本校関係者

- 中村量一(学校法人中村学園理事長)
- 中村紘右(学校法人中村学園法人本部長)
- 北浩一郎(株式会社LbE Japan 代表取締役/本校国際化顧問)
- 安達一徳(学校法人中村学園相談役)

本校教職員

- 奥井裕紀子(学校長)
- 高良清文(教頭)
- 木林裕盛(教頭)
- 平田晃己(教育開発部長)

議事録：土手

校長あいさつ

学校長

- ▶ 前校長からバトンを引き継いだSGH事業も最終コーナーに差し掛かりいよいよ仕上げの時期となった。SGH指定終了後のことも、今年立ち上げた教育開発部とともに、検討を重ねている。ぜひ引き続きご指導いただきながら良いものにしていきたいと考えている。7月の食のサ

ミットでも大変お世話になりました。外部からの来場もたくさんあり、中でも「教育が違くと生徒たちがこんなにも変わるものだ」と実感できた」というコメントが複数あり、大変ありがたく感じている。私たちが取り組んできたことが評価されたと思うととても嬉しい。また、今年もアジア高校生架け橋プロジェクトの一環で本校には9カ国10名の留學生が来ている。とても積極的で、留學生の発案で文化祭では一区画設けて活動しており自ら情報発信に勤しんでいる。同じ文化祭に関して、今年のSGクラスは法人や卒業生の協力も得ながら朝倉の支援のための商品開発を行っており、たくさんのご縁に支えられて取り組めたと改めて実感した。SGHで培ったものをベースに、新しく楽しく、充実した教育を目指していきたい。次年度新設のGIクラスは時代を革新していく生徒を育てたいと思う。今後も指導をお願いしたい。

事業活動報告(平田)

教育開発部について

- ▶ 第一回運営指導委員会でいただいた質問事項への回答は別紙の通りである。
- ▶ 今年度から立ち上げた教育開発部について、その後の進捗について報告する。職務内容としては、週1回開催する定例会にて、海外進学や留學生受け入れ、広報、事務的業務等、他部との棲み分けが難しい領域の業務について検討し、職務分担の明確化を図ると共にこれまでSGH委員会が主導して取り組んできたSGH事業を引き継ぎ、取り組んでいる。
- ▶ また、次年度以降につなげる新しい取り組みとして、3つ挙げたい。
 - ① 来年度入学生より設置する「GI(グローバル・イノベーター)クラス」に関しては、現SGクラスと異なり1年次からのクラス選択となる。3年間かけて課題解決力や英語運用能力、観察力、コミュニケーション力等を高め、新しい価値を創造できるグローバル・イノベーターを育成すべく新たなカリキュラムを開発していく。
 - ② 産学のみならず、学校間の連携を持つことも大事だと考えている。同じSGH指定校ではいずれも食に関する探究課題をテーマに取り組む高知西高等学校や京都学園高等学校と、海外の学校には食のサミットにこれまで参加して下さっているアカデミック・ライシーアム高校(ウズベキスタン)との提携をすすめており、今後の学習活動の向上に努める。他にもいくつか提携準備を行っているところである。本校主催の行事のみならず、提携校主催の活動にも積極的に参加する等、ぜひ相互に生徒交流ができるような協力体制にしていきたい。
 - ③ 中村学園大学・短期大学部の併設校であるメリットを利用して、大学・短期大学部の講義の先取り履修を後期より開始することになった。高2から10名程度、大学の授業を履修しテスト等で単位取得が可能な制度である。高校の授業を優先しなければならぬため、放課後や休暇中に充実した受講が可能となるような制度を整えていきたい。

グローバル・キャンパス部会

- ▶ 6年目の実施となったグローバル・キャンパスの今年度の大きな改善ポイントは、評価指標のルーブリックである。まずは、生徒が自己評価するルーブリックの改定を行った点である。昨年度複雑だった評価段階や項目を集約し、より求められる力が明確になるよう改善工夫を行った。また、研修運営に関わっているグローバル・リーダーにも同じ項目を用いルーブリックによる評価を実施した。分析がまだ終わっていないが、生徒も指導者も同じ評価基準を用いることにより成果がより見やすくなる。また、例年研修の事前・事後で行っている自己

分析シートに関しても、事前・事後で数値が上がり、中でも異文化理解度やアイデンティティへの意識は伸びが高かった。

国際交流部会

- ▶ 国際交流の大きな動きとして、昨年度 6 名だった半年受け入れのアジア高校生架け橋留学生は、今年度は 10 名在籍している。来年度は 4 月からの受入になるので、その準備も含めて制度として整えていきたい。その他では、トビタテ！留学 JAPAN で選定された生徒 1 名がニューヨークへ渡航した。また、私学協会主催行事として夏休みを利用して生徒が 2 名タイへ渡航したが、今月末にはタイから来校する予定であり、相互交流に努めたい。SG クラブに在籍する高 1 の生徒 5 名が APCC の北京渡航の企画に参加を予定している。学校交流や企業訪問等、生徒一人ひとりが充実した滞在になるよう事前指導も行っていく。

講座・講演/進路部会

- ▶ 8 月・9 月と SG 講座を実施し、現在 SG クラス 5 期生の選考に向けて準備を進めている。12 月 20 日には来年度の SG クラスが決定予定。大学進学に関連することとして、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ (KCC) の進学説明会を 6 月に実施した。

SG クラブ

- ▶ 本校文化祭の水仙祭へ向けた活動を大きな目標として取り組んでいるが、先の水仙祭では株式会社千鳥饅頭総本舗との企業コラボ商品を販売した。

SG クラス

- ▶ 2 年生に関しては、探究科にて食の 4 領域の学習を進めており、直近では海外 FW を踏まえて「食と経済」をテーマに探究活動を行っている。また、12 月に東京で開催される全国高校生フォーラムに 2 年生 3 名と留学生 2 名計 5 名の生徒が発表予定。3 月に関西学院大学で開催される探究甲子園に参加予定と校外での発表活動に向けた取り組みも進めている。
- ▶ 3 年生に関しては論文作成と大学受験に向けた準備を進めている。

英語力向上

- ▶ これまで同様、英語実用技能検定（以下、英検）及び GTEC を用い、英語運用能力の数値化を行っている。現時点で、SG クラス 3 年は CEFR B1・B2 レベルが 55%であり、残り 1 回の受検のチャンスがあるので引き続き対策講座等を通じて英語力向上に努める（一昨年度末 77%、昨年度末 52%）。

AL・指導指標

- ▶ 各教員が互いの授業での取り組みを見てフィードバックする会を継続している。現時点で二度実施。加えて、教員研修として元京都精華大学教授の筒井洋一氏を講師に招き、『「生徒が学びの主人公」という学校を創る』と題しワークショップを開催した。研修後もフォローアップとして関わっていただいている。また、指導指標に関して、アンケート項目に「継続して

取り組んでいるか」を問うものを追加し、1学期末に調査を行った。意識的にALに取り組む環境の維持を行っている。

情報公開

- ▶ これまで同様にHPやニュースリリースとして、学校の取り組みを発信していく。

質疑応答

副島氏

- ▶ スライド3枚目の大学・短期大学部での先取り講座履修について、九州大学(以下、九大)では高校生が大学で研究・リサーチをするものがある。大学に来てリサーチ等を行っている高校生が「大学の授業を履修して、高校での学びの大切さに気付いた」という声があった。主として高校の学びを大切にするのは大前提ではあるが、先取り履修が生徒たちにいかにプラスの学びであり今の学習とのつながりがあるかの説明を含む声かけが生徒にあると尚良いのではないか。また、九大で行われている高校生のゼミ参加は大学側が教員に業務として指示するトップダウンよりは、そういったプロジェクトに参加したい教授陣を募って行っている。学生側も新たな気づきが生まれる機会となっており、関わる全ての人たちにプラスになっている印象をもっている。
- ▶ スライド4枚目の評価基準を三段階に変更した点に関して、これまでのループリックが煩雑化していることが教育界でも課題視されるようになってきている。ワンポイントループリック(真ん中に標準値になるような項目を挙げて、両サイドに振れ幅がなければ標準値、右に触れていれば尚良・左に触れていれば今一步というような指標の作り方)が使い勝手もよく、主流になりつつあるようだ。

北氏

- ▶ GIクラスについて、イノベーターを育成することが目標になっているが、どのようにして育成できるのかという手法がなければ形だけになってしまい実績にはつながらないのではないか。先行研究等各地にあるが、①大学・短期大学部との連携で手法を確立する ②男女別学を意識した独自のカリキュラムを開発する という観点があればより中村らしさが出て、専門性・発展性も出てくるのではないか。このアイデアだと、世界の先行事例はあまり多くないと見受けている。中村がもつ環境をフル活用するようにできると独自性がでて良い。
- ▶ 報告全体を通して、外部のイベントに参加する生徒や教職員の数が増えている、より盛んになってきているという印象を受けたが、それらが何をきっかけに起こっている事象かを分析できると尚良い。どうインフルエンサーになるのか、また逆にそういったものに手を伸ばさない子どもたちとの学びの質にどういった差異が生じるか等、仮説を立てて取り組むことが重要だと考える。そういった学びの機会を得た生徒たちがどのようにインフルエンサーとなり、どのような進路を取っていくかというプロセスが、他の生徒にも影響を与える。学園との連携でそういった分析を行うことは、今後の生徒募集の観点からみてもより重要になってくるのではないか。

新澤氏

- ▶ 「想像する大切さ」という話が出たが、教科横断型授業が想像力を育むことにつながる鍵だと考える。歴史の授業では歴史に関する設問は歴史の授業で習ったことの中から答えを得よう

とするし、数学のベクトルの単元の授業では微分しようと発想する生徒はいないだろう。何も無いところから、何を使って発想するのかを学び解く癖をつけることができるのが教科横断型授業だ。実践事例がそれほどあるものではなく、開発していかなければならない大変さがあるが、何も無いところから考えていくことが鍵となる。

- ▶ もう1点、スライド3枚目の新たなカリキュラムの開発について、食のサミット等では、生徒たちには地域の食について調べたベースがあって、その先の新しいインプットや発展的な思考の育成につながっているはずである。ポスト SGH 事業の話や新設する GI クラスの話もあったが、ぜひそれぞれの学びの中でまずは自分の身近なものを学び、それと海外を含む外の世界とを比較する力等を意識しながら、想像力の育成に努めてほしい。

岩本氏

- ▶ 中村学園大学との連携の話が出ているが、(専門学校)の経営者の視点としては、せっかく学園グループ内に三つ星レストラン含め国内外で活躍する人材を輩出している調理製菓専門学校があるので、大学だけでなくそういった専門学校やその卒業生との連携を通じて「食」に関する学びを深めることも大事ではないかと感じる。
- ▶ また、5年目として取り組む中で生徒の学びの機会の充実を図ってきている点は十分理解している。その上で、教職員のグローバル化を意識した研修等取り組みは何かあるのか。
- ▶ 自身の子どもの進路選択の折、「企業のグローバル化がこれだけ盛んであっても、自分がしていないことを良いとは言えない」ということを言われたことがあり、やはり日本人のグローバル化の鍵は学校現場が担っているところは大きいと痛感した。ぜひ生徒のグローバル化のためにも先生方のそういった研修をより盛んにしてほしい。

中村紘右法人本部長

- ▶ 直近の採用では、多国籍な背景を持つ者や英語科に限らず留学経験がある者等の採用も積極的に行っており、そういった経験値の高い教職員が少しずつではあるが増えてきている。

安達相談役

- ▶ 生徒募集は学校運営で常々苦戦するところだが、新設する GI クラスはどういった層の生徒を募集するのか？また、募集要項等で英語の保有資格等条件を設けているのか？
 - ▷ (回答) 広くくれば、外向き思考の生徒層。多言語・多文化や探究活動に興味・関心のある生徒としている。また、英検準2級以上取得者を考慮する旨は記載している。
- ▶ GI クラスは1年次から募集することだが、SGH 申請時の構想では1年で広範な知識の獲得をし、進級時に深化させる想定だった。GI クラスを1年次から設置することで、非 GI の生徒がそういう機会を喪失することに懸念は？
 - ▷ (回答) SGH 事業下で1年次に学年全体を対象に行っていた広範な知識獲得の機会提供は引き続き行っていく。その中で、例えばグローバル・キャンパスではGI クラスの生徒が他クラスの生徒をリードするような立場で研修を行う等、より優位性を持って機会提供できるようにしていきたいと考えている。

北氏

- ▶ GI 入試選考について、年度初めに平田先生とブレインストーミングした折、理想としてメタ認知力がある生徒像というような話しをしていたが、あまり先行的なことを取り組むと市場がついてこないということもあるので、奇をてらったものではなくて本物を見つけるように

できたらいいだろうなと改めて感じた。

中村紘右法人本部長より学園全体の取り組みとしての補足

大学・短大との連携について

- ▶ 科目等履修生として、教養科目の受講を調整した。実際は同じ学園とはいえ、高校生の受入に関しては教授陣にとってはハードルが高いようだった。ただ、これを皮切りに、高校生にとってはキャリア教育の一環として今後も制度を改善し継続していきたいと考えている。大学や専門学校に進学する自分を想像する機会としてオープンキャンパスがあるが、それは作られた機会でしかない。だからこそ実際の講義を受講することで、専門知識の獲得の必要性等も意識して、できるだけ早期に大学の教員側の了承を得た上で中学含め広く他学年の生徒の履修にも広げる等、関東の女子校等では主力であるようなキャリア教育の形を参考にしながら、私たちも今後取り組んでいきたいと考えている。
- ▶ 次のステップとして提案いただいた共同研究については、幸い学園として多くの企業から産学連携の声かけをいただいているので、そこにどのように女子校の生徒を受け入れていくか、ハードルはあるが取り組んでいきたい点である。水仙祭では、朝倉地区の復興支援としてJA朝倉の協力のもと活動を展開したが、PBL形式で企業コラボを取り組んでいく中で、そういった取り組みをゼミ研究の事例として経験している大学教授に指導を仰ぐ等は行った。教員単体ではなくゼミ単位の場面を用いることで、教授陣だけでなく学生がそういった指導側も経験でき、学生自身の学びの深化にもつながることだと考える。働き方改革にも力を入れていく上で課題はいくつか見えているが、より積極的に教員を巻き込むようにしていきたい。
- ▶ 専修学校との取り組みについては、これまでも水仙祭等で協働してきているが、専修学校への進学を希望する生徒も多いので、先のキャリア教育の一環としても積極的に連携を図っていきたい。直近で発行されたミシュランガイドでは13名の卒業生が星をいただいていることはとても喜ばしい。そこに到達するまでの苦労話等も、折を見て生徒たちに伝える機会を設けられたらと思う。

「食のサミット」実施報告(手島)

- ▶ 3年間で食をテーマとした探究活動で培った力を集約する食のサミットは、初年度の反省から、昨年度からテーマを絞って実施している。テーマを絞ることでアイディアの重複や視点が狭くなる等懸念はあったものの、バラエティに富んだ主張だったので次年度も同様に絞った開催を予定している。例年告知・エントリー数の確保が課題だったが、昨年度アジア高校生架け橋プロジェクトで留学していた生徒の母校参加があり、学園の理解と支援のおかげで代表チームを9チームに増やし招聘して開催できた。このつながりを活かして国内外の学校提携も進めているところ。380万円の予算で実施した。
- ▶ 過年度の改善として、まず会話力の不足を補う事前学習・指導を行った。ビデオ会議の事前開催は生徒が海外チームとのコミュニケーションをとっていたことで、当日は昨年度よりスムーズに取り組むことができていた。次に、一般生徒の積極的な聴講を促すために、出場チームへのコメントを記入するメッセージカードを取り入れた。提出は強制ではなく任意ものとしたが、予想を上回る多くのメッセージカードが集まった。英語での記入をした生徒も多く、複数枚(複数チームへ)記入する生徒もおり、より主体性をもった自発的な学びの機会となった。このような工夫を今後も続けていきたい。実施の前後で行ったアンケート調査では、

15 項目中 14 項目で昨年度の数値を上回る結果となった。また事前の回答数値が高くなっている理由としては、SGH での取り組みを知って入学する生徒等に因果関係があるのではと推察する。一方で、「多様な考えに触れるために、海外に行ってみよう」という項目では数値が低下している。海外から参加者を招聘して取り組むことが生徒の海外志向も醸成できると仮定し取り組んでいるが、今後の課題として改善に努めたい。

次年度案

- ▶ SGH 指定校としての事業は終了するが、現 2 年生に SG クラス生も在籍しているので、SGH での取り組みを踏襲して継続することにした。
- ▶ テーマは「食と安全」。形式としては校外からチームを招聘する形式も踏襲するが、オリンピック・パラリンピックの開催年につき、そういった世情も理解しながら企画準備していきたい。プレ会議と同時進行で、サテライト会議を同テーマにて行う予定。本校生徒をはじめ、他校の中高生も募集し、より多くの参加者を募る形式にしていきたい。GI クラス発足後なので、該当生徒に企画進行を経験させる場にもしていきたい。また、次年度はコンテスト形式をとらない企画にする予定である。共同宣言の策定がメインになってきており、コンテストの必要性に疑問が残るため、コンテスト形式にしないことで準備期間を長く設けることができ、また招聘チームを確定することで、事前学習の充実が見込めると考える。
- ▶ 本筋ではないが、フェアウェルパーティは本校生徒が企画進行する想定だったが、実際に来校してみると全チームの生徒が積極的に進行等も行い、主体性を全員が発揮できる機会となった。本来の教育的視点として今後も大切にしていきたい。次年度の案内として、来月告知開始、年度内には代表チームの確定をし、先述した通り早めにコミュニケーションを取る機会を設けたい。

質疑応答

北氏

- ▶ 全体の参加を重視するためにコンテスト形式を取らずにより学びのプロセスに注力することは非常に重要だと感じた。大切な視点として、サミットを行う目的イメージが共有されなければ、生徒の意欲・主体性は発揮されない。その共有があることで参加意図がより明確になる。サミット形式があるのであれば、オーディエンスがあり、有識者や地域社会も巻き込んで、社会に与えるインパクトを大きくできるような仕掛けが大切だと考える。
- ▷ **手島** 有識者によるフィードバックは、ルーブリックを運用して実施予定。社会とのつながりに関しては、情報発信の意義について生徒はすでに認識できているようだ。今後、ご提案いただいたような社会とのつながりについても意識できるように指導していきたい。引き続きご意見等あれば共有いただきたい。

水仙祭報告 (2 年 SG クラス生徒)

新澤氏

- ▶ 質問：自分たちはもっとこういう力があつたらよかつた・こういった視点があつたら良かつたと感じた点は何か。また、柿の消費について、ぜひ海外 FW に行く前に、日本国内の情報収集をして比較できる視点をもっておけると尚良い。

北氏

- ▶ 朝倉に対してどうにかできないかという視点から始まったとのことだったが、「何ができればよかった」と考えたか。例えば「朝倉の人たち100人が笑顔になる」等、どのような変化を起こそうと思って取り組んだか。ぜひ、次同じような取り組みをする際に、「こういうことを起こしたい・こういう変化を作りたい」という目標を立てて、そこから逆算して考え、プロセスを組み立てると学びが深まると感じる。(海外FWでも柿についてテーマで活動したいとのことだったが) そういったビジョンを帰国後に振り返ることも大切である。

マレーシア海外研修計画説明

小野氏

- ▶ 昨年の報告で、シンガポール・マレーシアの違いに驚いたという声があった。私自身、独立する日にシンガポールにいて、「同じだなあ」という印象を受けた。ぜひ、50年でどう違ってきたのか、そういった視点もぜひ持って行ってほしい。

北氏

- ▶ 目標に掲げていた2つは「手法」。何かができるようになる、その力をつけてどのようなことを実践したいと思うか。例えば先ほどの話だと「2020 TOKYOで訪日する外国人へ提供する食事を企業コラボで考案したい」というようなこと。

アジア高校生架け橋プロジェクト留学生の発表後の質疑応答

安達氏

- ▶ I am very surprised and glad that all of you speak both English and Japanese.
- ▶ How did you learn Japanese?
 - ▷ **回答(留学生)** By the classes held by teachers at Nakamura, and speaking with classmates for each of us.
- ▶ (For those who have studied Japanese) How have you learned Japanese before coming here?
 - ▷ **回答(留学生)** My family speaks Japanese and also I like anime, so those are my motivation.
- ▶ In the orientation, could you tell me one of the most impressive experiences in Fukuoka?
 - ▷ **回答(留学生)** The most impressive thing is that no trash on the street. The smiles of teachers when they came and picked us up at the airport.

質疑応答

副島氏

- ▶ 最終年度ということだが、文科省からまとめとして何か指示があっているか?
 - ▷ **回答(平田)** 今年度も報告書の作成はあるが、それ以外は特に指示を受けてはいない。

北氏

- ▶ WWL の方針については？
 - ▷ 回答(平田) 現在申請に向けて調整中。固まり次第報告したいと思っている。

最後に

中村紘右法人本部長より

- ▶ なぜグローバル化に対応しようとしているのか：
建学の精神「日本人としての自覚を持ち」というキーワード。外に出る機会が自分にもあったが、一手法が「グローバル教育」だと考えている。
- ▶ 日本人としてのアイデンティティなくして、海外・グローバルでの活躍はない。例えば、先の留学生の伝統舞踊の紹介にあったようなことを本校生徒が海外で盆踊り紹介等できるか、そういったものを身につけて海外に行くのとそうでないのとでは吸収するものが大きく異なってくる。実社会と今の勉強がどのようにつながっていくのかをさらに教育の中で意識できる実践をしていきたい。また、企業との連携も深めながら人材育成を行っていく。この育成のための外部資金の獲得等も重要になってくる。
- ▶ 本日 WWL の話はできなかったが、現在準備中であり、自前だけでは大胆な改革は難しい。来年度以降、SGH 事業の指定はなくなるためこの運営指導委員会の形式を踏襲するかは決まっていないが、今後とも学園の発展のためにご意見をいただく機会を設けたいと考えている。

第3回運営指導委員会 議事録

令和2年2月10日(月) 12:30~14:30

於：本校1階 大会議室

次 第

- 一、理事長あいさつ
- 一、SGH 事業5年間の振り返りと次事業申請にあたって
- 一、各部会活動報告
- 一、質疑応答
- ※ 運営指導委員会の前に実施した学校行事 SGH 報告会に参加いただいた。

出席者

運営指導委員

米濱和英氏（株式会社リンガーハット代表取締役会長兼 CEO）
岩本仁氏代理 山本寛氏（学校法人福岡成蹊学園理事・法人本部長）
小野博氏（グローバル人材育成教育学会会長）
新澤和幸氏（福岡県人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局私学振興課参事補佐）
末松大和氏（NPO 法人アジア太平洋こども会議・イン福岡専務理事）
副島雄児氏（九州大学副理事）

学園・本校関係者

中村量一（学校法人中村学園理事長）
中村紘右（学校法人中村学園法人本部長）
北浩一郎（株式会社 LbE Japan 代表取締役/本校国際化顧問）
安達一徳（学校法人中村学園相談役）

本校教職員

奥井裕紀子（学校長）
高良清文（教頭）
木林裕盛（教頭）
赤司博文（事務長）
平田晃己（教育開発部長）

その他外部関係者

岡村幸広氏（高知県立高知西高等学校グローバル教育部長）
相川洋氏（SG インキュベート株式会社 投資部部長）
山下春菜氏（SG インキュベート株式会社 管理部）

議事録：土手

【 情報交換会：SGH 報告会生徒発表について（委員会に先だって報告） 】

生徒への講評

新 SG クラス生徒・アジア高校生架け橋プロジェクト留学生

相川氏

- ▶ 衛生に着眼して、食・健康・環境と複合的に話題としてわかりやすく取り組んでいた。着眼点としてとても興味深かった。大学生・社会人にとっても非常に関心が高い話題だった。ぜひ引き続き学びを深めてほしい。

米濱氏

- ▶ 日本の昭和 20 年代・30 年代も同じだった。そういう時代を通して今があるわけだが消費期限と賞味期限との違い等も興味深く調べてあった。

岡村先生

- ▶ プレゼン手法がユニークで伝わりやすくとても楽しく発表を拝見した。PPT 等で機械的な印象を持ちやすい発表方法だったが、スキットを取り入れた手法はどういう経緯でアイデアが出たのか？
 - ▷ **(回答)** 留学生が劇を取り入れてはどうかと提案してくれた。
- ▶ 日本人の生徒から「留学生とともに調べ学習をしたことで学び・気づきが深かった」というコメントがあったが、留学生にとってはどのような学びがあったか。
 - ▷ **(回答)** インドネシアでは、あまり食と安全というテーマで考えることがないので、良い機会だった。インドネシアでは人々はあまり意識していない。

山本氏

- ▶ スキット手法だと「伝えたい」という意志がとても伝わりやすいと感じた。
- ▶ 年齢層が高い人たちの SDGs の話を最後の班が話題として取り入れた時に、各プレゼンテーションに一貫性も生まれ、聞いている大人も理解が深まるものだった。
- ▶ 各生徒の役割分担はどのように？
 - ▷ **(回答)** 国決めはくじ引きだったが、その後は調べ学習等自分たちで国の知識をつけた上で食の安全性に関する取り組みを行った。

マレーシア・シンガポール海外フィールドワーク (2 年 SG クラス)

- ▶ 工夫した点は？
 - ▷ **(回答)** シンプルな英語表現で聴講しやすいようにした。
- ▶ 香辛料の許容量やアレルギー表示の話について、現地にてアレルギーで困っているというような話があったか？
 - ▷ **(回答)** マレーシアでは、アレルギー表示は少なく自己管理という話を聞いて驚いた。

全国高校生フォーラム (2 年 SG クラス)

- ▶ 食と環境について自分たちが調べる議題を決めて取り組んだ。発表は英語での取り組み。ただ原稿を読むだけでなく、伝えたいことが伝わるようにした。発表は英語だったが、全校生徒に伝わりやすいように日本語でのスライドに作り替える等、ジェスチャーも取り入れるよ

う心がけた。

- ▶ 東京で他の高校生の発表を聞いたと思うが、そこからどのような学びがあったか？
 - ▷ (回答) プレゼンの最後に、要点をまとめ直して発表する学校が多かった。今回の SGH 報告会ではそれを活かすことができた。
- ▶ 折り紙プロジェクトは実際にやってみたか？
 - ▷ (回答) これから取り組む予定。
- ▶ 折り紙の中に啓蒙メッセージが書かれているということだったが、折られた折り紙は崩したくないのではないか？折り方ガイド的なものも併せてプロダクトデザインできると、複数持ち帰ってくれる旅行者等いれば、より普及活動につながるのでは？
- ▶ 中学生がハワイに修学旅行へ行くが、クジラの折り紙で啓蒙活動ができるならば、学年を超えた学びの共有になるのではないか。

アイスの商品開発 (2 年 SG クラス)

- ▶ 商品化の予定は？
 - ▷ (回答) テスト終了後、3 月中に企業の方々と打ち合わせがある。次年度夏に完成予定。
- ▶ トマト農家とのつながり・きっかけは？
 - ▷ (回答) 様々な方とのつながりがアイディアをより良くしていく、相乗効果がたくさんあると思う。そういったつながりを大切にして、学び続けていきたい。

理事長あいさつ

- ▶ 9 時半という早い時間から長きにわたりご出席を賜りありがとうございます。週末・祝日の中日、また年度末のご多用な中、学力の三要素である思考力・判断力・表現力、中でも表現力は日本人が不得手とする力だと思っていたが、生徒たちはよくそれを身につけてきているという印象を午前中の発表を通じて感じた。
- ▶ また、生徒の主体性に関してもより積極的な生徒が増えてきている。これも皆様の指導のたまものと受けとめ、大変感謝している次第である。
- ▶ 先のポスターセッションは 92 の生徒発表があったが、テーマ毎に分類してみると、添加物等の課題を含む食の安全性や食中毒、アレルギー、食品偽装と、幅広く生徒たちの興味・関心があることを実感した。
- ▶ SGH に申請した段階では、食に関わる社会文化・経済・栄養・環境という 4 領域の学びの切り口を設定したわけだが、社会文化的観点や経済的観点を持ち合わせたものは少なく、女子高生にはそういった点が課題としてあるように見受けた。5 カ年事業の終了を迎えた後も引き続きこういった点の改善を図るべく取り組んで参りたい。とはいえ、5 年間で非常に大きな学びになってきていることに、改めて感謝申し上げる。

新しい試み

- ▶ ポスターセッションでは中学生も参加している。
- ▶ 新 SG クラス 5 期生も活動を開始している。GI クラスを次年度 1 年生より新設する予定なので、その生徒たちよりも先取りに様々な活動ができるようにと意識しながら取り組んだのが今年度の SGH 報告会である。
- ▶ 10 月以降の取り組みに関する進捗報告を行うが、最も大きな動きとしては WWL への申請が挙

げられる。詳細は追って説明するが、先月末に WWL 構想申請書類の作成・送付が完了している。また、今後の予定として、2 月 12 日～17 日で高校生全校生徒を対象に SGH 効果検証意識調査を実施し、SGH 事業の効果検証を行う。年度末にかけて、研究開発報告書の作成と文科省への提出を行い、例年と同様に運営指導委員の皆様にも報告書を 4 月上旬に送付させていただく予定である。

グローバル・キャンパス部会

- ▶ 昨年度よりループブックを簡素化し、評価結果の整合性を検証すべくグローバル・リーダーも同じループブックを運用した。考察はまだ十分にできていないが、実施済みの取り組みである。また、生徒の事前・事後調査からは、特にグローバルマインドの醸成と異文化適応度、食文化や環境・国際問題への関心等が高まったとの回答が多かった。今後の課題としては、より効果的な事前学習の方法を検討することや事後の学習におけるテーマ学習や英語運用の継続、GI クラスの生徒のリーダーシップを活かした取り組みになるよう検討を進めていく。

国際交流部会

- ▶ アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生 10 名を各クラスに受け入れることで、グローバルマインドを醸成した。日常的にクラス内に留学生がいると学校全体として国際的な雰囲気が生まれ活気づくことにつながった。また、全校集会や学年集会等、留学生による自国文化の発表の場を設け、新 SG クラス内定生徒が留学生と活動することにより、より多くの生徒が留学生に関わり、共に学ぶ機会となった。課題としては、留学生受入体制の改善と職員間の共通理解を深めることや、担当者の体制作りの強化が必要だと感じている。さらに充実した留学生の活用を検討する。

SG 講座・進路部会

- ▶ SG クラス選考については、来年度で最終設置となる SG クラス 5 期生の募集に関して、36 名の希望から最終的には 30 名でクラス編成していくこととなった。また、先の国際交流部会でも触れたけれども、昨年度までは春休みの期間で事前学習等を行っていたが、今年度は冬休みに前倒して行い、4 月以降に良いスタートがきれるよう指導している。次に SG 講座・進路部会として、特筆したいのは海外進学が増えている点である。また、在籍中の様々な学習活動を記録するためにポートフォリオの蓄積を推進している。課題としては、海外進学者に対応し、推薦書の英訳等の担当者を明確化することと、活動履歴を十分に活用できる形にどう集約するか検討することが挙げられる。また、高大接続に関しては今年度後期より中村学園大学科目履修生制度の実施や公開授業への生徒参加を開始し、2 年生 10 名が履修を開始したことが挙げられる。今後の課題として、進学予定者が効率よく履修できるプログラム作りと制度利用生徒の今後の志望動向との関連性の検証に取り組んでいく。

SG クラブ部会

- ▶ 今年度の SG クラブ生は 22 名中 7 名が SG クラスへ進級予定である。また、部活動全般で、係分担等を明確にすることで、より結束し組織的に活動できた。これにより外部イベント (Youth Discovery Tour 2019 in Beijing) や国際交流、ボランティア活動等の参加につながった。

SG クラスの選出が今年度で終了かつ GI クラスの新設に伴い、SG クラブも今年度で廃止となるが、今後指導や活動のノウハウを SG・GI クラスに生かし、継続・発展させていく。

食のサミット部会

- ▶ 成果としては、学園の協力もあり最多の予選 7 ヶ国 32 チーム、本選 7 ヶ国 9 チームが参加し開催できた点が挙げられる。作成した提言書は過年度同様に国連 WFP 協会へ提出した。昨年度の課題への対応として、まず実施スケジュールの調整がある。今年度は本校一般生徒の参加を配慮し、1 学期の終業式前に本選を実施したが、次年度は東京オリンピックの開催をふまえ日程の調整が必要となった。また、今年度は SGH 認可最終年度のため特別に本選出場枠を増やし、より広報活動に注力した結果 7 ヶ国 32 チームとなった。次年度は予算を考慮し、海外よりも国内の参加校増を目指す。そして、英会話力の向上は今後も取り組んでいきたい課題である。ビデオ会議前の事前指導を強化や実践的な会話力の向上を図ったが、引き続き生徒が他校とコミュニケーションをとれる場をより多く設けていきたい。
- ▶ 次年度の食のサミットのテーマは『世界における「食の安全性」に関する諸問題とその解決策』である。実施日を 8 月 21 日とし、日本語でのディスカッション大会を前日に執り行う予定である。当日は海外校を含む代表 6 チームによる発表、共同宣言策定等を行う。

SG クラス部会

- ▶ 今年度の成果として、クラス一丸となり食のサミットを成功させ、以後取り組んでいる論文作成では指導体制を整え、効率よく進めることができた。また、学業成績のみならず探究科での活動を生かした志望理由書の作成やポートフォリオの充実を図り、大学入試では面接、プレゼンテーション等これまでの活動をアピールできる受検方式に挑戦する生徒が多数いる。
- ▶ 進路決定状況としては、2 月 10 日時点で 3 年 SG クラスから、立教大学、青山学院大学、法政大学、関西学院大学、西南学院大学、立命館アジア太平洋大学、中村学園大学等に進学予定である。また特筆する点として先ほども冒頭で触れたが、海外への進学が増えており、漢陽大学や韓国外国語大学、KCC 等、進路実現に関してもグローバルな視点を持つ生徒が増えていることが伺える。今後の課題として、学校行事・考査・探究活動のバランスをとるべく年間計画の見直しと海外大学への進学指導体制の整備、英検・GTEC 等の受検指導、課外・個別指導の強化等学力層の底上げが挙げられる。

英語力向上部会

- ▶ 成果として、CEFR で B1 レベル到達者数が全体数として増加し、昨年度末に 94 名だった到達者数が今年度は 133 名とようやく三桁達成となった。現在中学で取り入れている Cambridge English で学習してきた生徒が高校に進学する来年度、さらなる増加が期待される。今後の課題として、来年度より始まる大学入学共通テストに対応できる力「思考力・判断力・表現力」をつけさせる指導の強化を挙げる。具体的には「情報整理力」「概要・展開・意図把握力」や「複数の意見の相違点・共通点を理解する力」を養成するために日頃の授業から教員が工夫して取り組んでいきたい。また、3 年 SG クラス生徒の英語力強化に関しても、CEFR B1 レベル到達者は昨年度の 52%から若干の増加があり今年度は 63%となっている。目標値は 100%なので、SG クラス・GI クラスともに、一層の強化に努めていく。

AL・指導指標部会

- ▶ 今年度の取り組みとして、AL 学習会 3 回の実施や、中村学会で PBL 型授業実践報告や他校の先進事例の共有の実施、夏の職員研修で生徒が主体的に学ぶ学校作りについてのワークショップの実施が挙げられる。今後の課題として、より多くの教員が AL 等による授業改善への取り組みを意識し実践を継続することで、授業研究や授業参観の活発化を図っていかねばならない。
- ▶ 指導指標の測定については、毎学期の測定に加え、夏の職員研修の振り返り項目（生徒主体となる取り組みを行っているか）を指標に追加を行った。2 学期におけるそれぞれの取り組み率は、AL 型授業への取り組みは 76.8%、深い学びを促進する授業は 40.0%、夏期研修以後の取り組みは 47.7%との結果だった。今後の課題として、深い学びを促進する指導を行い、生徒主体の授業改善への工夫を継続することが挙げられる。

情報公開部会

- ▶ プレスリリース（3 回）、SGH 便り発行（2 回）、学校広報誌「すいせん」に関連記事掲載（10 件）、HP への記事掲載（40 件）を行い、SGH 事業における教育活動を広く公開してきた。今後も、情報の迅速かつ継続的な発信や食のサミットの形態変更について周知・発信の徹底に努める。

質疑応答

北氏

- ▶ グローバル・キャンパスへの参加が、海外研修や学外主催の英語活動への参加につながっているという話があったが、数値としてどれくらい上がっているか等、統計はとっているか？ また、グローバル・キャンパスのループリックの精査はいつ終了予定か？
 - ▷ **（回答）** 手元に数値を持ち合わせていない。また、ループリックの精査についても期日ははっきり設けていない。
- ▶ ポートフォリオの評価率が高い大学を抽出して、より活かしやすいものをリスト化する等あってもいいのではないか？
 - ▷ **（回答）** 確かにそういった精査は必要だと思う。ただポートフォリオは毎年変更が入っており、一律で同じ基準を設けてリスト化するのは難しいかもしれない。

副島氏

- ▶ 年度末の報告書に関して、5 年次終了に関する評価が何かこれまでと異なる点があるか。
 - ▷ **（回答）** 具体的に数値として評価をするというようなものは受けていないが、研究開発報告書はより数値を求められ、報告内容はこれまでの 8 ページから 20 ページと増えており、WWL 事業への申請もあるため、きちんと整理して報告書を提出したいと考えている。

SGH 事業の総括・WWL 事業への申請について

- ▶ 本校では、以下 3 つを研究開発の柱とし SGH 事業に取り組んできた。『「食」をテーマとした PBL（探究科）の開発と実施』に関しては、食の 4 領域を主体とした PBL を開発・定着し、

多くの教員が担当できるようにしてきた。「ルーブリックによる評価法の開発と実施」に関しては、目標に合わせて適切に作成し、形成的評価を測定し分析を行った。また、「高大接続の拡充と新たな入試制度への対応」に関しては、多面的評価は高校内部選考のみではあるが、科目履修生制度の実施に努めてきた。その結果として、グローバル・リーダーとして必要な課題解決力、多様性受容力、コミュニケーション力等が付き、社会課題に対する関心、取り組みへの意欲・態度や英語力が向上するといった生徒の変容が見られた。また、学校全体では、地球規模の課題「食」の探究活動や日常的な留学生の交流を通してグローバル意識が向上し、教え込みから生徒主体の授業への転換により21世紀型教育や新入試への対応や留学や海外研修参加者、ひいては海外進学者の増加にもつながってきたと捉えている。

- ▶ 今後の課題として、探究の取り組み、評価法等を学校全体への成果・普及していくことや、マンパワーに頼らず組織全体で教育活動に取り組んでいく。
- ▶ ポストSGH事業であるWWL事業に申請し現在結果通知待ちである。申請にあたり、事業テーマは「食の課題解決により持続可能な社会を創出するイノベーターの育成」とした。研究開発項目として、GI(グローバル・イノベーター)の育成を目指し、来年度4月入学の1年生より「GIクラス」を開設することで、カリキュラム、イノベーションスキル育成法、研修先、各種学校・企業・諸団体との連携、留学生との協働、高度な学びの提供法を開発の充実を図っていく。



中村学園女子高校SGHだより

2019年11月18日発行

“[食]のサミット2019”を開催 世界中の中高生が「食と飢餓」の問題を討議

『地球規模の課題「食」を通じたグローバル・リーダーの育成』をテーマに掲げた本校のSGH事業。その一環として「食のサミット」を、今年も7月13日(土)に本校で開催しました。

今年度のテーマは『世界における「食と飢餓」に関する諸問題とその解決策』です。海外(米国・マレーシア・韓国・ウズベキスタン・モンゴル・バングラデシュ)と国内(京都学園高校・中村学園女子高校)の9チームが本選に出場しました。

前日には、参加チームが本校に集合しプレ会議を開催。当日の進行や本選後に発表する共同宣言について打ち合わせを行いました。そして翌13日には歓迎レセプション(出場チーム紹介など)のあとに本選を行い、各チームが作成した動画の紹介と英語によるプレゼンテーションや質疑応答が行われました。いずれのチームも問題意識が非常に高く、高校生ならではの視点と柔軟な発想が生かされ、

甲乙付けがたい発表でしたが、SNSを通じてまずは飢餓について「知る」という解決策を発表した中村学園女子高校チームが最優秀チームに選ばれました。3回目となる「食のサミット」で、初めて本校の生徒が最優秀チームに選ばれました。

なお、このサミットで取り上げた問題点の解決策はアクションプランとして共同宣言としてまとめられ、生徒の代表から副島雄児審査委員長(九州大学副理事)に手渡されました。

準備から進行までのほとんどに本校SGクラスの生徒が携わり、リーダーとしての自覚と成長を感じさせるサミットとなりました。



参加者の感想

食のサミットに参加して、「食」の問題を解決することが社会にある他の課題を解決することにつながるのではないかと感じました。英語がわかるのもっと楽しいと思うので、今後の勉強も頑張りたいと思います。

委員長の講評

各チームの飢餓という課題解決へ向けてのアプローチはそれぞれに異なっていますが、異なっているそのこと自体に意味があるのではないのでしょうか。私自身も大いに考えさせられました。



食のサミット2019 共同宣言

1. Introduction はじめに

地球上には飢餓などの厳しい状況に直面している人々がいる一方で、一部の人は十分すぎる富を手に入れている。現在、世界では9人に1人が飢えているといわれている。私たちはこの問題を解決すべく、以下の内容を提案する。

2. Our Proposal 提案

(1) Current Issues 現在の問題

- ①食糧廃棄 ②貧困
- ③資金の不足 ④知識と意識の不足

(2) Proposal of Solutions 解決法の提案

- ①廃棄された食糧を集め、政府やNGO,ボランティアの協力の下で再分配を行う。
- ②寄付と慈善活動 ③SNSの活用
- ④寄付に頼らないよう、教育の機会を得られない人々への教育を行う。

(3) Action Plan 活動計画

- ①廃棄食糧の再利用、再使用にボランティアを募り、それを必要とする人々に配布する。
- ②問題意識を高めるために、#startsmallgobigを広め、寄付金を募ることを目的としたクラウドファンディングのサイトを立ち上げる。
- ③主要な校外活動として認め、単位を付与する。
- ④初等教育において飢餓に関連する教科を加える。

3. Conclusion 結論

長期的な解決策を考えたとき、それらはまず、我々から始めていくべきものだという結論に達した。私たちは飢餓問題を自身の問題であると考え、周囲に協力を仰ぎ、必要とする人々に食糧を供給すべきである。今回の提案は、国内外を問わず賛同を得られるものになるだろう。たとえ小さなことでも一人一人の行動が、大きな問題解決に向けての効果的な第一歩となると我々は確信している。



最優秀賞グループのコメント

今回の食のサミットを通して海外の高校生たちとたくさん関わることができ、また違う職種と飢餓に関することを知って、その中で私たちなりの解決策を導き出すことができてとても良かったです。私の人生において最高の出来事でした。It was such a great opportunity for me to have the chance to communicate with high school students from different countries. It broadened my perspective over the topic "poverty." Food Summit is for sure one of the most precious events in my life.

牧野さん

楽しかった。
It was fun!

テンさん

食のサミットは同年代の多種多様な考え方を学び、交流できる貴重な時間だったと思います。参加したメンバーにまた会いたいです! Food Summit was a great experience for me. I was able to learn from people in my age who have diverse way of thinking. I truly hope to see them again!

久保さん



「G20財務相・中央銀行総裁会議」で 本校生が提言書を提出

6月8日に行われたG20財務相・中央銀行総裁会議に、3年生の外山花音さんが代表生徒として参加しました。外山さんは、高校生によって作成された提言書を日銀総裁に手渡しする係としても活躍しました。

高校生による提言は、国際的な人材の育成を目的に政府が企画したものです。今回の提言のテーマは「誰もが取り残されない社会の実現」というもので、開発途上国で生産した水素エネルギーを先進国で消費する循環型経済の実現や、貧困者向け医療制度の充実などを訴えました。



提言をまとめる際、意見の方向性も違ったので不安に思ったときもありました。しかし、勉強会を重ね議論していくうちに、とても良い仕上がりになりました。私にとって一生忘れることのない最高の思い出になりました。こんな機会は滅多にないと思います。こんな経験ができるイベントがさらに増えることを祈っています。
(外山花音さんのコメント)

Art&Fashion&Englishを極めたい! トビタテ!留学Japanでニューヨークへ

文部科学省の海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN日本代表」に2年生の下野真奈さんが選ばれ、夏休みの約3週間ニューヨークで学んできました。

留学前には、「たくさんの美術館や博物館を巡り、実際にニューヨークの街を見たり、感じたりすることでセンスや感性を磨きたい」と抱負を語っていました。実際に現地でたくさんの観光地や美術館を訪問することができたそうです。「メトロポリタン美術館では間近に作品を鑑賞することができることに驚きました。何百年何千年もの前の作品を実際に鑑賞することができ感動しました」と感想を語ってくれました。

また、「この留学では自分の英語力の低さを痛感させられました。これからもっと英語の勉強に励み、今後の進路に向けて英語力が伸びるよう努力していきたい」と思っています」と目標を掲げていました。



福岡とタイの友好の架け橋 福岡県私学協会主催 アジア派遣事業に2名参加

8月3日～10日にタイのバンコクへ2年生の松井遙菜さんと南亜里沙さんの2名が参加しました。日本大使館やタイの日系企業への訪問など貴重な経験ができました。ホームステイを通して、現地の文化や生活に直接触れることができました。タイでは盛大な歓待を受け、感激していました。

また、このプログラムは交換留学となっているので、10月28日～29日にタイから交換留学生が来校しました。松井さんと南さんは、自分が現地で受けた歓待の感激を留学生にも味わってほしいとアイデアを出してくれました。箏曲部の演奏を聴いたり、華道を体験したり日本文化をきちんと伝えられたのではないかと思います。



苦労も多いけれど、それを上回る楽しさがいっぱい 本校卒業生 ケニア豊田通商 森田紗代子さんSG講演

8月19日に本校卒業生(中高一貫2期生)である森田紗代子さんをお招きしてSG講演を行いました。森田さんは、ケニア豊田通商にご勤務なさっており、社内やグループ内の改善活動に従事していらっしゃいます。インフラが整備されていない、貧富の差が激しいなど、生活する上で苦労も多いけれど、多様性のある暮らしや、常に新しいものを取り入れようとする文化があることなど、苦労を上回るほどに楽しいことがたくさんあるそうです。



特に印象深かったのは、ケニアで開発されたM-PESAというモバイル送金サービスでした。出稼ぎにきた人が、携帯電話を使って自分の村に送金するのが、銀行を使うよりも簡単にできるということで爆発的に広がったそうです。生徒たちもなかなか身近に感じることの出来ないケニアの話題に熱心に耳を傾け、積極的に質問する姿も見られました。同じ学校で学んだ先輩からのお話は、特に心に響くものだったようです。

ムスリムの食に関する理解を深める 海外フィールドワークを前に調理実習

6月19日、2年SGクラスでハラールフードを使用した調理実習を行い、「お好み焼き」と「八宝菜」を作りました。ハラールフードとは、イスラム教の教えで食べてもよいとされている食材です。ほとんどの生徒が初めての体験に興味津々でした。

この実習は、SGクラスが10月に海外フィールドワークとしてマレーシア・シンガポールを訪問するため、イスラム教徒の多い同国の食習慣を理解する目的で実施したものです。石橋ヘルミンダワティ講師からは、「ハラールよりもハラム(禁じられているもの)は何か」を判断できるようにと教えていただきました。

生徒からは「他の宗教の方と一緒に食事をすることをどう感じますか。」「もし間違ってもハラムを食べてしまったときはどうしますか。」「など活発に質問が出ていました。



新しい視点で探究をし続ける人材を育成します GIクラス誕生!

SGHの実績を活かして、2020年度から高校1年に新しいクラスが誕生します。GI(グローバルイノベーター)とは、グローバルな視野を持ち、新しい切り口で探究し続ける人材という意味です。

GIクラスでは、英語探究の授業や英検準1級までの対策講座など高い英語運用能力が習得できます。また、国内での英語キャンプだけでなく、アメリカやセブ島での海外研修など実際に英語を使う機会も充実しています。GIクラスでも地球規模の課題である「食」の問題について探究活動を行い、協働性や課題解決力を養うことができます。探究活動には大学や企業も協力して下さるので普通の授業では体験できないこともたくさんあります。

SGHの実績を、ますます発展させたGIクラスの取り組みにぜひご注目ください。



中村学園女子高等学校

〒814-0103 福岡市城南区鳥飼7-10-38 TEL: 092-831-0981 FAX: 092-831-0985

<http://nakamura-njh.ed.jp/>

中村学園女子

検索



中村学園女子高校SGHだより

2020年2月1日発行

SGクラス2年生が海外研修 多民族国家マレーシア・シンガポールを訪ねて

10月19日から6日間、2年生SGクラスがマレーシア・シンガポールを訪問しました。主な目的と成果は次のとおりです。

①姉妹校スルタンイブラヒム女子高等学校との親善を深める

同校との交流も4年目を迎え、食のサミットや相互の学校訪問を重ねてきました。その成果として、文化や生活習慣の理解も深まり、今回の交流では本校生徒が現地の食材を用いて日本料理のレシピを使ってハラル料理をつくるという挑戦をしました。食文化の違いを肌で感じ、現地の人の味の好みなどを知ることができたことはとても貴重な体験となりました。日頃の学習の成果がうかがえるとともに、姉妹校としての相乗効果を感じることができました。

②探究科のテーマに関する知識と理解を深める

探究活動を続けてきた生徒たちは、マレーシア工科大学で食文化についての講義を受講し、同大学の学生と討論しました。さらにシンガポールでは、現地で人気がある日本料理レストランや日系企業の工場見学などを行い、現地の事情について知識と理解を深めました。

③国際的な視野を養い、異文化・多様性の理解を深める

マレーシアでは一般の人々の暮らしを体験するために、メラユ・ラヤ村を訪問し、現地の方々と一緒に衣食住や宗教などに触れ、いろいろな話を聞くことができました。こうした体験を積み重ねた後の市内観光は、もっと深いところで歴史・文化・宗教・民族の多様性などを感じることができたようです。

日本とは全く異なった環境で、自分たちとの違いを多く発見するとともに、お互いの共通点を見いだすことも多くありました。言葉や文化は違えど、世界においても生きる仲間なのだを再認識することができました。世界における日本の立場、自分たちはこれからどう生きていくかなどを考える貴重な経験となりました。



外国人留学生と 英語コミュニケーション研修を実施

世界中から留学生が集まる立命館アジア太平洋大学で学ぶ外国人留学生と本校の1年生が過ごす「グローバル・キャンパス」を、宗像市のグローバルアリーナで9月に実施しました。

英語やボディアランゲージだけで留学生と意思の疎通を図る2泊3日の研修です。グループフラッグ作りやスカベンジャーハントなど楽しいプログラムから、世界の飢餓や食の問題に関するディスカッションと発表まで、留学生リーダーとともに真剣に取り組みました。

外国人留学生も母国語は英語ではないことを知り、英語の学習に対する意識が変わった生徒もいたようです。コミュニケーションの難しさと楽しさを実感する貴重な体験となりました。



留学生10名を受け入れ —アジア高校生架け橋プロジェクト—

文部科学省が企画し、AFS日本協会が実施する「アジア高校生架け橋プロジェクト」に本校も昨年からの協力しています。今年度はマレーシア・インドネシア・タイ・インドなど、9カ国10名の留学生を8月末から受け入れました。

留学生たちは、文化祭や合宿研修・部活動などにも積極的に参加し、寮生活やホームステイをしながら様々な体験をしています。ずいぶん日本語も上達し、日本文化への理解を深めようとする姿に、本校生徒も刺激を受けています。3月の帰国までわずかな時間しかありませんが、クラスにもすっかり溶け込み、本校での学校生活を楽しんでます。

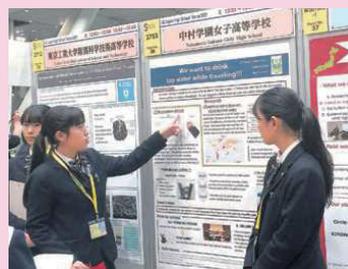
留学生にとっても、本校生徒にとっても有意義な取り組みとなっています。



SGH全国高校生フォーラムに参加

12月22日に東京で開催された「2019年度全国高校生フォーラム」に、SGコース2年生3名と留学生2名が参加しました。全国のSGH校やWWL拠点校などの生徒がそれぞれの探究課題についてポスターセッションやテーマ別のディスカッションを行いました。全国から100校以上の学校と、アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生が集まりました。

本校のポスターテーマは「We want to drink tap water while traveling abroad!!(渡航先で水道水を飲みたい!!)」でした。このテーマは、マレーシアFWで感じた「水道水を飲むことができない」という体験をもとに、日本とマレーシアの水道システムの違いを調査し、現地の人の水への概念を変えたいという願いを込めて設定しました。ディスカッションでは、グループ代表としてSGコース2年市山みさんが英語でプレゼンテーションを行いました。とても充実した有意義な1日となりました。



SGクラス2年生が水仙祭で企業コラボ 朝倉市復興支援プロジェクト

10月4日の水仙祭で2年生SGクラスが企業コラボ“朝倉市復興支援プロジェクト 朝倉マルシェ”を実施しました。企業コラボとは、擬似企業運営体験を通じて企業理念の研究・紹介、商品の仕入れや販売、ホスピタリティを学ぶことができるキャリアプログラムの1つです。今回はJA筑前あさくら、トドケル株式会社にご協力いただきました。

夏休みには、実際に朝倉の農家や選果場に足を運んで「傷がある農産物は売れない」「柿は皮むきに手間がかかるので消費が伸び悩んでいる」など現状の聴き取り調査を行いました。そこで考えたのが、小松菜を生地に練り込んだカップケーキです。当日は、朝倉の野菜を使った焼きそば、新鮮な野菜や果物、加工品のジャムやドレッシングなどを販売しました。野菜は生徒が考えたオリジナルレシピを付けるなど工夫を凝らして販売しました。



少しでも朝倉市の復興に貢献できるようクラス一丸となって頑張る準備を進めた甲斐もあり、当日は大盛況でした。



懇親会では生徒も活躍! 小川県知事との交流懇談会に参加

11月8日に福岡県知事公舎で「女性政策の推進について小川県知事との交流懇談会」が開催され、SGコース2年の生徒たちが参加しました。内閣府参与の浜野京さんや九州大学名誉教授の水田祥代さんの講演も行われ、インバウンドと女性の活躍の関係や働く女性の生き方について考えを深めることができました。交流会では、文化祭の企業コラボでお世話になったトドケル株式会社の大島さんの指導のもと、生徒3名で懇親会用の料理



のレイアウトを行い、テーブルの上に料理をそのまま盛りつけるという斬新なアイデアで参加者を驚かせました。高校生で参加していたのは本校生徒のみであることから、小川県知事にもその積極的な参加の姿勢を誉められました。

ユースディスカバリーツアーに5名参加 日中友好と未来の社会のために

12月19日～25日に行われた「Youth Discovery Tour 2019 in Beijing」にSGクラブの1年生5名が派遣されました。これはアジア太平洋子ども会議が主催しており、中国宋慶齡基金会の協力のもと行われています。今回は、福岡県内の高校11校、生徒40名、教員7名が派遣されました。現地では、万里の長城をはじめとする文化財や、北京大学や企業の訪問で最新のテクノロジーに触れるだけでなく、ホームステイをすることで日常の家庭での生活を体験することもできました。

初めて中国に行くという生徒もいましたが、日本人をこの上なく歓迎してくれること、中国企業の最新テクノロジーが非常に素晴らしいことなど、想像以上の体験に感動していました。まだまだ自分は勉強不足だということを感じた生徒も多かったようです。参加生徒のほとんどはSGコースに進級します。これからの活躍に期待します。



真の国際人となるために 一株式会社ことほぎ代表取締役 白駒妃登美さん SG講演

12月16日(月)にSG講演を行いました。講師に白駒妃登美さん(株式会社ことほぎ代表取締役)を招き、「日本のこころを学ぶ～真の国際人となるために～」というテーマで講演していただきました。真の国際人になるには、まずは自国の歴史や文化の理解を深めることが大切で、そうすることによって国際社会の中でお互いを尊重できるようになり、国境を越えて素晴らしい人間関係を築いていけるということでした。また、2つの異なるものを融合させるといふ、日本人の高度な精神性は、食の分野にも生かされており、その特異性は、「和える」という手法に象徴されるのではないかと考えているということでした。

本校は日本の心を学ぶ教育を大切にしています。本校の教育をしっかりと身につけることで、真の国際人に近づけるのではないかと思います。生徒たちにとって、有意義な時間になりました。



世界の食と安全性について語ろう! 「食」のサミット2020開催決定

本校は、2017年から世界の中学生・高校生による「食」のサミットを開催しています。国内外の中高生が様々な視点から食の問題についてディスカッションし、その解決策を国連関連機関に提案してきました。

2020年も右記の要領で「食」のサミット2020を開催することが決定しました。

大会詳細及び過去のサミットの様子は、本校ホームページ特設サイトに掲載中です。是非ご覧ください。

※写真は2019年「食」のサミット

1. テーマ
世界における「食の安全性」に関する諸問題とその解決策
2. 開催日
2020年8月21日(金)
3. 会場
中村学園女子中学校・
中村学園女子高等学校



中村学園女子高等学校

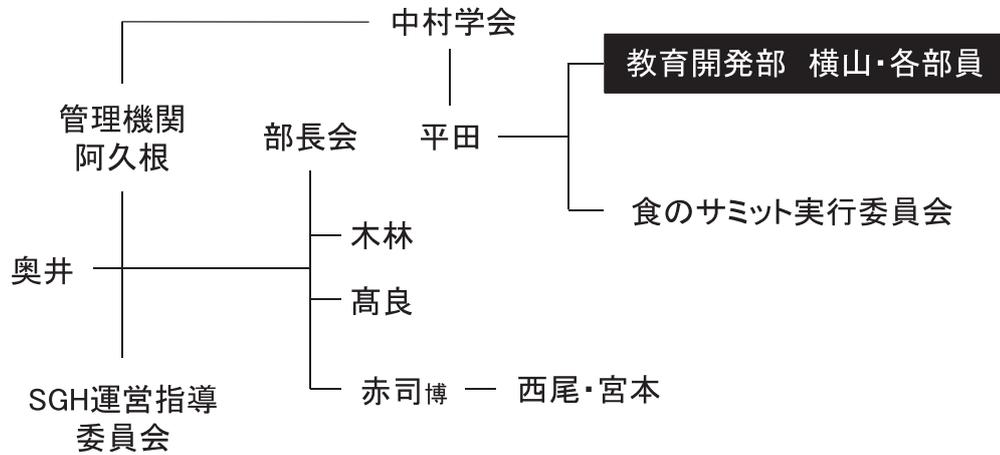
〒814-0103 福岡市城南區久島7-10-38 TEL: 092-831-0981 FAX: 092-831-0985

<http://nakamura-njh.ed.jp/>

中村学園女子

検索

令和元年度 教育開発部 組織図



教育開発部の係分担

- | | |
|--------------|---------------------------------|
| ① グローバルキャンパス | ● グローバルキャンパスの計画・準備・実施 |
| ② 国際交流 | ● 留学生支援 ● 学校交流 ● フィールドワークの計画・実施 |
| ③ SG講演・SG講座 | ● 講座・講演の計画と実施 |
| ④ SGクラブ | ● クラブ指導・体系化 |
| ⑤ 食のサミット | ● サミットの計画・実施 |
| ⑥ SGクラス | ● 探究科の実施・ルーブリック作成 |
| ⑦ 英語力向上 | ● 英語4技能育成・検定 |
| ⑧ AL・指導指標 | ● 職員研修の計画・実施 ● 指導指標測定 |
| ⑨ 情報公開 | ● ホームページ・資料整理・発信 |
| ⑩ 進路 | ● SGクラス選考 ● 海外進学指導 |
| ⑪ その他 | ● 学校・企業との提携 ● 事業効果の検証 |

関係資料 6

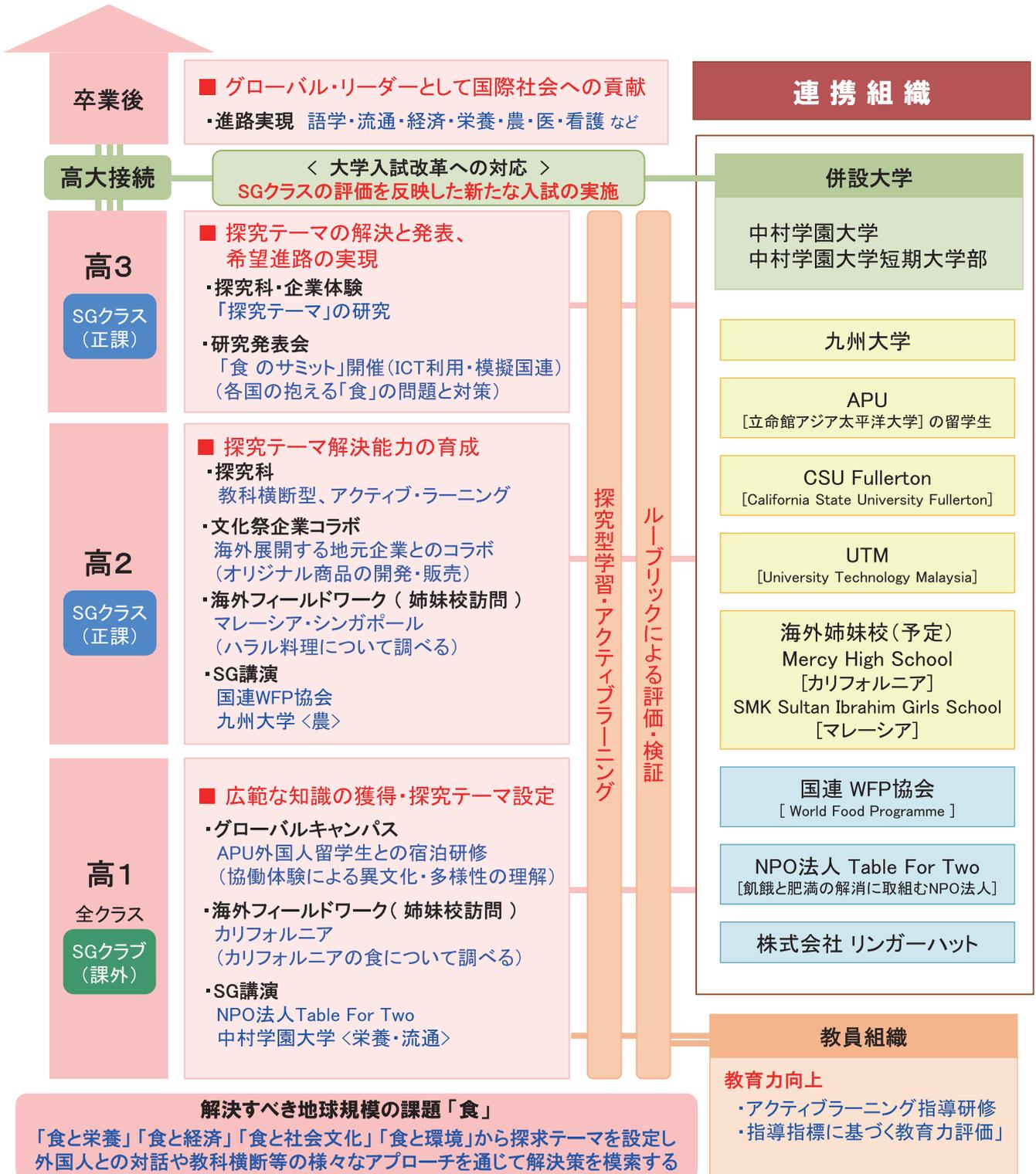
地球規模の課題「食」を通じたグローバル・リーダーの育成

研究開発の概要

- ①「食」という文理融合テーマに基づくPBLの開発と実施
- ②ルーブリックによる評価方法の開発と実施
- ③高大接続の拡充と新たな入試制度への対応

グローバル・リーダーに必要な資質

- 日本人としての自覚を持ち、
- ①地球規模の課題に対する幅広い関心を持ち、自主的に学習し教養を深めることができる。
 - ②多様性を認めながら、主体性を発揮できるためのコミュニケーション能力がある。
 - ③自ら課題を設定し、他者と協働して解決にあたることができる。



関係資料 7

令和元年度 SGH 関係年間行事一覧

日程	主要活動内容	対象
4月19日	台湾花蓮高級中学来校（生徒34名）	高校2・3年SGクラス
5月13日	SGクラス説明会	高校1年生
5月15日、6月5日	「食と社会文化」学習成果発表	高校2年SGクラス全員
6月7日	ハワイ大学進学説明会	中高生希望者
6月8日	G20財務大臣・中央銀行総裁会議における提言書提出	高校3年SGクラス1名
6月19日	石橋ヘルミンダワティ氏によるイスラム文化に関する講演、ハラル実習	高校2年SGクラス全員
6月19日	第1回運営指導委員会	教育開発部員
6月21日	USオークランドロータリークラブ生徒1名来校	高校2・3年SGクラス
6月26日	第1回アクティブ・ラーニング学習会	有志教員
7月12日～13日	食のサミット（プレ会議・本選等）	全校生徒
7月14日～8月3日	「トビタテ！留学JAPAN」参加（ニューヨーク・3週間）	高校2年SGクラス1名
7月21日～23日	English Camp	中高生希望者
7月22日	「”生徒が学びの主人公”という学校を創る」ワークショップ	全教員
7月24日～31日	1学期分指導指標測定	全教員
8月3日～10日	福岡県私立高校アジア派遣研修事業参加（タイ・バンコク）	高校2年2名
8月7日	「英語で楽しむ日本の食文化～はじめの一步」講師：津田晶子氏（中村学園大学短期大学部准教授）	高校1年希望者31名
8月19日	「アフリカに住んで」講師：森田紗代子氏（ケニア豊田通商）	中高生希望者39名
8月27日	アジア高校生架け橋プロジェクト留学生9カ国10名来校・歓迎式	全校生徒
9月9日～14日	グローバル・キャンパス（2泊3日×2団）	高校1年生、留学生
9月11日	「食と環境」講演『地産地消の魅力～由布院ならではの名物料理を創る』 講師：田井正宣氏（イタリアレストラン「南の風」シェフ）	高校2年SGクラス全員
9月15日	AFS博多支部主催アジア高校生架け橋プロジェクト留学生歓迎会（本校カフェテリア）	担当教員
9月19日	SG講座「貧困地域での住居建築ボランティアの活動報告・世界の貧困問題の現状」講師：衛藤智仁氏ほか（立命館アジア太平洋大学 ハビタットAPU）	高校1年希望者53名
9月20日	第2回アクティブ・ラーニング学習会	有志教員
10月7日～11月20日	TABLE FOR TWO おにぎりアクション2019	全校生徒
10月28日～29日	短期留学生受け入れ（タイより2名）	高校2年に配属

関係資料7 (SGH 関係年間行事一覧)

日程	主要活動内容	対象
10月16日	第2回運営指導委員会	教育開発部員
10月19日～10月24日	マレーシア・シンガポール海外フィールドワーク	高校2年SGクラス全員
11月8日	SGクラス一次選考締め切り	高校1年生
11月18日	第3回アクティブ・ラーニング学習会	有志教員
12月10日～11日	SGクラス二次選考	高校1年生
12月10日～18日	2学期分指導指標測定	全教員
12月16日	株式会社ことほぎ 代表取締役白駒妃登美氏「日本のこころを学ぶ」	全校生徒
12月18日	「食と環境」学習成果発表	高校2年SGクラス全員
12月20日	SGクラス選考結果発表、オリエンテーション	新SGクラス内定者全員、アジア架け橋留学生
12月19日～25日	アジア太平洋こども会議・イン福岡主催 Youth Discovery Tour in Beijing	高校1年生5名
12月22日	全国高校生フォーラム参加	高校2年SGクラス3名 留学生2名
1月14日	上海文来高校信男教育学院より学校訪問（高校生19名来校）	高校2年SGクラス全員
1月15日	香港福岡県人会長、渡辺大輔氏 「海外で働くことや現地の方と交流する醍醐味などについて」	高校2年SGクラス全員 高校1年希望者28名
1月26日	「食と栄養」学習成果発表会・調理実習	高校2年SGクラス全員
1月26日～2月15日	語学研修派遣（フィリピン・約3週間）	高校3年希望生徒
2月10日	SGH 報告会	高校3年を除く中高全 学年生徒
2月10日	第3回運営指導委員会	教育開発部員
2月26日～3月5日	3学期分指導指標測定	全教員
2月29日	アジア高校生架け橋プロジェクト留学生「感謝の会」	関係教職員・生徒、ホス トファミリー、AFS
3月8日	アジア高校生架け橋プロジェクト留学生 帰国の途へ（東京経由）	